伊地知文庫
文庫20
237
1

文庫20
237
1

伊丹知氏書冊

我国の俗に時連奇小用夢記抱うれ
これ少うあり参く傳授業は秘密
播磨国鶴中近我秦の学問者侍年と
奇特乃良我風雅乃堂の和歌乃連俳也
又為うきれ或い物写乃徳又い彫刻の
粗拙乃しろや唐へ伝れ物と先師
小尋く何ままく用ふ事ばかりの長
毛蒙く事乃しく伝乃紙業ぶるの又我ち

後乃人のためにかの元禄伝りしべき書こ
乃現代にかこの書入くこれらの羽林乃業
良枝と号伝教芭蕉ん公所乃ごとこそや
高乃弘学ごとに松乃業のちりうせず演乃
まこごれのごとくに世をしめどりくゆれ
ふとも伝ことの為ん為ん形ん乃も

元禄五申歳五月吉祥日　中堀氏　僖菴

一　和哥連俳小吟称ける愛和歌羽林乃用小
ゐく先親ち用技乃式と制ちく古来師家
乃所秘ち今幸小西教西順乃変達公制
規小合路ち弱小正式乃秘と得くこに芭
と伝ち一こ乃上小本路して粗古制の有
と歌ちとる長歌用ち無点歌技ちと似シ
新制い公限小ゐるべく狂師伝乃奥
と所変ち迄

西行を為獨点

西順を為獨点

西行西順を為表点

一凡連所近代集と称(ホンキ)猶うしてとぐく万葉(ミシテラ)

古今伊勢大和物語後源氏狭衣八雲御抄

奥儀抄袖中抄を外乃諸書ふれく

正誤(セイコ)を添刪(テンサク)し注釈乃疑滅を補ひあまく

く所乃出所を引うり

一所乃字(コトハ)を繁い字(ガ)と稱(ツク)いろは

とかくるを用ゐ(ヒ)べき無(タ)多(オ)ほ(ボ)くいを

中ふ抜ぬくも稀(ソウソウ)年ふ経るとあるとかゞ

抜ふ一歌(ウタ)乃中ふ抜ぬく又歌(カ)乃字(ガ)を

踏(シ)ぐ一くふ又四十八字乃いろはとそ

ちくを頭(タヨ)ちうむ俗(タヨ)全いとのい年

いふ(ヒ)ろ乃ぐ云(ヒ)現(ヒ)ろれい重(カテ)ふいとぐ乃

いふいとぐの乃ふ成いむ(ヒ)れ井(ヒ)れど

むりどりいかあり梅づけ[illegible]むりどりのか
みちもとこすとはもとりすとゝふで
まれり解かとくくみぞ〳〵見るべし又也
ぐるあり閑式加く相級とゝりとり上京の絵
とゝくゝ下京の図ふりとゝりの間い業絵業ゝ
乃薬板ふ建ずを用ふゝるゝ林よ
をゝやゝしてゝゝめるぐゝふるゝゝん
ゝ形りゝ

志とり萩

朝林総目

○い

一いけのくい井よ　㋑ 清こゝとゝあゝとゝ也なり
いけあのいゝ出るゝやゝむい池乃清とゝぐひろ木とゝ
とゝ云 槻 機ゝゝれゝり池の出る板ふいけあのいゝ出
ゝとゝ云なり
△小ふ田ゝ苗代あゝさゝのゝゝあゝいゝ
△池あのいゝ出るゝのゝゝれゝみぐゝり形ぐゝ年ぐゝへゝゝ
一いさゝ井よ　㋑ ちいさゝ井ゝり
一いかひゝろよ　㋺ 稲と田乃ゝゝく神ゝ又稲乃出ゝゝ

のくるぶ遥かくさる所なり又稲刈りくろ穂を云
とも○又川柳の下枝あるを紀ぶくと柳のいかび
しろと云なり柳乃あるふるり傍なり
△秋の田乃ほのの庵乃ほの延月ぞ見れば夢乃ごとし
△岩越く岸乃柳のいか延れるく波ふ風をぞ
一いりくろよ　㊀ そ紀ぶくれまくびとのふ
一いねのろよ　㊁ 山吹乃ゆりも又くらあーのもとを云
一ゆれくろよ　㊂ ふりくく数なりふりくろくぞと云
一石ろくくろよ　㊃ 石ふ花なり
一いねをかーハよ　㊄ 石ふり毋人乃河ふ岩と稲乃もとを云
一流れ石乃角と云とも又石ふ苔見紀ぶくしの出たるを
一いやらーのくよ　㊅ いよくく年毎もしハ駒字なり

一いさくくと川よ　㊆ 夜の庵もてかそ紀ぶれなり
いさくあるを云六帖ふ山ふあるなり
一ゆりいろよ　㊇ ゆりとはもとハやもめ字なり
△ゆりかとは河ふくるどぞ秋のよハ地とかるの陽り必ふる
一いまーハよ　㊈ 今りと云河ふ
ありじとくくるも陽ふ云今りと云河ふ
△今ふどとゆりゆりとくぞ乃表ふかり秋とふ秋乃ふ
一ゆへハくふよ　㊉ いくんとくれどえいふ表なり
△ゆへいくゆへハくるくれて秋と河ふ
一いあくほよ　㊋ いまのくまなり　古後指者
一いくくよ　㊌ いくくもく又十字と云又又百を
雲山ゆどく云り白雲の又百を雲ゆどく云八雲ゆどく云

一いあづと　上ハ　上　あづけあり

一いくさをみ　上　幾許の人方悉幾許思異目驚アリ

一いろあれ人　上　色あれ人あり　色色人〻

一いけあれ人　上　色あれ人とも云又いけあるとも云ふあり

一市あれ人　上　拙き市あれ人　市女あり市女と計ともいふ

一いそをよ人　上　荒海人と云いそをよの出ることあり

一いとく　上　いとくあり

一ひとのくまち　平　ひとのくまちあるかあり

一ひとの紀ち　平　石乃まちあるかあり

一いかとあせ　上　山者あり又原庭ともあるこもいふ

秘ることあり　秘ることあり

秋いなづま　秋いなづまと云八雲ことばめい抵抗又居を

一ひとの紀ち　平　日本紀にはつちと也者と云又嫁義をとと云男女の死也とそ生ず

一『門ろ』ハ　㊁そこぐとり

一いまとろハ　㊁おそて　夜とり　鶏と云

一『いろく』夜ハ　㊁ろく夜つゝ　山猫　ごゝ夜あり

一『いろひろ』ハ　㊁猛の字のかゝさんひろハふ

てろとゝ云一向と云又いろひろんとも云

一いとやもくねろハ　㊁やもくいねぐりめろいとて稼もよ

いの稼もよ　いもやもく稼もよ　いとゝふいぬ

ねろ　万系ふ　寝の字　宿の字とろあり

古△義やぐわろすくゝ　行ぐ　やいと稼人やもろ

円△もとゝて月日つたうたいろいろ　ひのまいふとけろやい稼ろ

林△若ころ涙のかろふ

△付ろ一ふ　ろ　松いろ　ぬろ人もいろ

一いさぎろハ　㊁位　ろいさろ同ろあり

一『いや』をさろ同ハ　㊁いよく　をさろ同あり

一『いまあ』さろハ　㊁涙　ふいまあさろふと付ぐやとあり

一『ぬれ』ろとハ　㊁くぐ　ら　あり

一『ぬれ』とハ　㊁出入　ろあり　万系　涙とあり

一『ぬる』色の中ハ　㊁夫婦　ろ　夫ともいもとふ

一『ぬ』ろ同ろハ　㊁まあ　ま　とふろあり　婚と云

一『ぬ』ろハ　㊁ふ　ぬと云

△さて元入の義ろ同ろ　ぬ　ぬ　ぬ　人九

△ろふ　ハ今ろん年のろ　ろ　ろ　ろ

七夕の夜移れんあり　ろ　ハ　年のろ　ろ　ろ　ろ

一今ゝとゝ上ハ　㊐今まことゝゝあり今ハあり

一いづくまゝ上ハ　㊐かざーのワさ天まわゝさと結りかざ

ーゆーて躍奇乃ゝゝ結ゝゝあり

一いとゝゝ上ハ　㊐又百樣とかくあり

一いとーゝわ田上ハ　㊐もゝうわゝ田あり　百三又百代小田上ゝ

一いげゝゝれ上ハ　㊐いげゝゝうわゝ田あり

一いたぬれ上ハ　㊐けづれあり

一いりぬゝいそ上ハ　㊐いゝゝれたゝゝ結ゝゝ平のゝゝゝゝ

△ゝゝ上ハそい入ぬゝ孫のまあれやゝゝゝくあゝゝゝれおはさ

△ゝゝあゝゝ孫のまあ紐ゝ沼のトにゝわゝ

△塩ゝゝ上ハ塩ゝゝ結ゝゝ紀のゝゝゝゝ入ぬゝ孫ハ井月西の上

一いさゝゝ上ハ　㊐小沼ゝのゝゝゝゝゝゝゝあり

一いゝゝ上ハ　㊐のゝゝゝゝゝわ沼ゝゝゝあり

一いのゝゝ上ハ　㊐地ゝ大風あり又ゝゝゝゝゝゝゝゝ

一いゝゝ上ハ　㊐万系ゝゝゝゝゝゝあり

一いけゝゝ上ハ　㊐八月十八日八幡乃祭ゝあり

一若代の沼ひ松上ハ　㊐松の松と沼ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

むゝ一所ゝのゝゝゝゝゝ天ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ紀乃若代ゆく松の松とむとびちゝひとゝゝくいのり

沼へゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

△若代のゝ庭松ゝゝゝゝゝゝゝ沼ひまゝゝくわゝゝゝゝゝゝ

△若代の庭中ゝゝゝ沼ひ松ゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一若ゝゝ上ハ　㊐まさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

又天津祢地津祢乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

私とそも同名なりあり　いまこの三わらべ私ホセ七月廿八日廿歳ニ
△天の川　天のさくめ岩　私の名　天の川わたれそうと
天のさくめ岩　天のりてそうとうけると　岩私と云夫の名なり
一いかぶち　(五)　いやとえんりぐさ門ハ山ちまり
△りぐさ川のぶれいぐさ　ふるる私のうかふれば川ぐさ
稲とうめる私ハ　やはりとれべ下へ行くとれど　稲
のぶりの山ホ月　ちりと云私の　どうとうめとうと云
私とのぶりと私とあるいのと云　えれたやぐてのかこ
わらべ山月のわどぐち　ちぐ　まてうとなり
一川ちまと　(五)　ろとてうえくれ　雑波ふちまり
二人と一ちまと云なり　八雲　方二俳豆國ちち　男私と
いぐ出て私とものとなり

一いろ孫ハ　(十)　姉なりいろハ兄なり
一いろ一の花　(十)　いろこれ花　羊蹄と云り百みち
ぐれといろり
一いさかハ　(十)　鯨魚と出百家ニ鯨魚とうとなり
ぐらうろなり　赤海士人乃名とも云なり
一いそかハ　(十)　海なり　私ニ日海藻
一そくのそてぐハ　(ヲ)　又ちと乃幣なり
一いそてくハ　(ヲ)　又十ちかち四十寺四ちと賀ふうると
一ぐくハ　(ヲ)　ぐりやと云ちと又ぐれ行ちと又門ち
ちくなり又名ちくなり
△玉虫のとめやいぐくとめちと孫の浜分伊ホ出なり
一いそ四くハ　(ヲ)　孫ホわくず石枕　七夕ホちめなり石

七夕のあふぎ紙くの又あを色のうり枕とも云

一いさまくらよ　ラ　脇枕（キヤウマクラ）あり又さうはくらとも云

ふとぎぬひろうの形あり

一いやめつらよ　ラ　表裏（ヤウリ）と云めづらしきあり

一いもらひもらよ　ラ　妹兄（イモセ）と云ざこうを祈こゝのあるうをとうらのうを

一いらくらよ　ラ　肆（イキクラ）　廛（イキクラ）　ちげを祈こゝのあるうをとうらのうを

一いさむよ　ム　勇と云さけをさんこ○真字の作勢

物語ふ禁（キン）のまとゝ云り　ちれば制（セイ）とうんうう又陳（イキ）と云

一いどむよ　ム　あらそふあり

一いそくよ　ウ　同（イラ）ないらそふあり

一いうあちよ　ウ　可（イカヤ）畏（カシコ）あり　何（イカヤ）も用ふ

一ふ雑（イツクサ）のうをの物よ　ノ　又穀（イツクサ）とふあり

一いらつ物よ　ノ　逃（ノガ）あり　あらいあり

一いうりのよ　ノ　切（ツラ）勢（ヤウ）記あり　こももあくとハ形

一いやくしくよ　ノ　弥（ヤウ）あり　ちくい物語あり

一いまあくしくよ　ノ　うらうくあり　野（ノ）捷（ツヤ）ふあり

一いとやちくよ　ノ　霞安（ヤスリ）と云　新やもと記あり

一いそれまよ　ヤ　又十（イスス）川のこゝ　私（イノヘ）家（ヤ）作雅（サウクワ）文り

一いのれまよ　ヤ　作勢と新文（サイクワ）と云　賀文と新僊（サイセン）と云

たゝみいれまよとゝ記ゆへうるゝ仏法というをの

ゆううくゝ内の七云外（ニツト）の七云とくいゝ明るゝ天望の

皇女云ゝあり

△ちゝとゝいうをゝあれゝゝ記ゝ孫ゝのゝ伯式部（王）釈

△終ふうう新の文の孫ゝゝて仏の出居と今ゝゝあり　為載

一いりわや　上八　㋕入後部屋あり新ふあり終れる有り

一いくされ弱　上八　㋖四尺とる丈長とも　貳寸弱有り

一いろこき海　上八　㋗極楽と云けるなり

一いたとと海　上八　㋘いたとやうと云なり

一いせれわま　上八　㋙いせれわまあり　いせれわまあり

日ふ七十丈宮海ふ入後日ハ袖とわすず永日ハ

一いもと山　上八　㋚妹山有山二乃名大和ふる名所

△後れていもせの山の中に落ちる川のしや世中

一いとへ山　上八　㋛はくしとなへさぐ山とも云ふ

一いでんなこけ　上八　㋜ひろく佛有り

一いやこけ　上八　㋝糸竹有り　琴ゆえの部有り

一いこけ　上八　㋞蓴ちんの門ふ竹有り　但し弟子ふれ　ちんの門ふ竹

一いこ村竹　上八　㋟一村ごとに竹有り

一いざるの　上八　㋠倡さそるなり

一いの　上八　㋡ちこ　稚をちこ　ちんちのこ

一いひこ　上八　㋢いひなしきこ　万二對の字也

一命ふひこ　上八　㋣命とひとしきこ　万二對の字也

△海と続さめふ意也　社会にひこ　ふる　ままあ

△おきり命にはふ意ちる　名ふのから　なのこ

一いこゆ　上八　㋤出ふ入後ひ　大ふる　稚ちひふ

ゆへこれと入後ひ　荘ふ　日聖名ふ　極楽也　城英疏細

英名ふ名ふ　云り　非有情　非情

一いもひ　上八　㋥かろの社　椒の字有り

一いろこの　上八　㋦ねこ地とい有り

一いさどトハ　㊀ 少莫多り百十七いさどれひくこれ湖と云

一いどぐぶえトハ　㊁ 人中へ出くれんぞ多れ人こはきよりんぞとりとるすこし出る家ばへこうこの例あり

一いとえトハ　㊁ 四百枝と云枝とぞり枝多れ義あり

一いでトハ　㊂ ものといふいでやまぞ云んあり百系二キツ 気の系といでとよまぞり 信ろんこやみさてもあるぞ

ふろ病ふかあつろ弁もあり

△いそ四ろ高く高ひさまりあげとつるもあれ

△いそ人いるのこぞ七月系のうへんいろごとて

△高おろ高いろぐろふいでやんいたなとて

一いまでトハ　㊂ かぐり形にすあり

一いよぞトハ　㊂ 祇ぐこれ高れまとく

一いたこそろあて　㊂ 弁の色ふ材サキとさもあれふあへそ

まつりろまでよろへ行ざろ

一いぐこそトハ　㊂ ろ口祭ふ四十のこふこてこと

ちきこぞく別り

一いとせあてトハ　㊂ 新迴サヤと云地とつくせあ切り色

古へいとせあて新き時いろハ色の系と入てでぬろ

一いろくさトハ　㊂ 種くこの系あり

一いろまぞぐさトハ　㊂ 製ニテ生系ノサ　くぶふ生ぞろくさ

一いあつろさトハ　㊂ 獣形ぞ勝たり

一いさトハ　㊂ 不紗サと云ろもとくいさろぞと云

一いざトハ　㊂ さろろふこ　腹ニコライ　去とろんあんいさ

一いぐさろろさトハ　㊂ いぐさ海ろさ海あり

一いちそやきよ　㊟早稲(ハヤキ)と云ところやうあり又うら
つけあるゝ逆速(イチハヤキ)と云又世のさらばと云といふり
一いさまれよ　㊟股えいろ幷ありいたまく云云
一いあるさよハ　㊟ひかこいあり云れうゝいあ云れ同あ
一いさゝあれよ　㊟稲ぐれるあり
一いさゝれよハ　㊟よざとあるあり
一いさゝひの月よハ　㊟十六月の月と十五夜の月ちとこゝ
やもゝひてはゝく出るゆへふと云とあり但方家に不知歟
慶月と書つゝ十七十八夜中を指あり
△いさゝひの月ふれよ社殿あれ家ぐらかるあり
一いさゝふ月よ　㊟十六夜の月ふわゝぐるゝ方家十七
△山のゝたいさゝ青といでんと指つゝとる夜で分るゝ

源氏ふいさゝふ月ふゆぐりあくわくぐれんゝとゝ云りこれハ
十五夜の月の入ゝゝ十六月ふあるゝゝといふり
△武士のやゝゝぐりの洲代本にいさゝ彼のゆゝ恋ゝ人花
見も月のゝんゝくゝぐりやゝゝ寄ゝあるゝ
△かゝれの紅葉の山の山さいたいさゝふ雲いたゝ尼
一いむてふ月よハ　㊟月ふひゝへ紅葉ゝゝ云ゝゝあり
一いゝ月きよハ　㊟紅葉(フキ)ゝゝ云いゝくゝも同おいゝゝるも
稲ぐゝふゝ赤いゝゝまゝゝゝ寄ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふもゝゝゝあんゝふいゝゝ
色い矢のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一いそもかつらとは　(キ)　紫檀と云おろろふとあらくぶけあれハ

一いちしろとは　(キ)　玄志ろとは有りいちしろとは同あり

一いなかりさよ　(キ)　せの字こいとそもも

一いそ木よ　(キ)　抽ふ勅ぜぬいとあしもびらぶどつぐ

一いけあの陵よ　(キ)　大和玉義師乃ろろふをいげ吉の由

付り　宋女虎門の虎別と歌を生ぐ義ろあり

一いさけさよ　(キ)　吉武ちあり

一今ハとはさよ　(キ)　かぐりの時かぐりのたあり　今ハとハ抽のかぐ辺

新古△今いとそとれむの居もあ後ぬ勝月とれ鳴ぐとれそ　辛崎

一いとあれよ　(キ)　いとあれあり

古△表たうとを抽とふ時ぐろ波のいとありろん

一いかさよ　(キ)　石のそぐちろ代ふ

一いの先よ　(メ)　ちとめのあり　ちのめハ鳴ぐ

猫目と云又いのひの目ろと六帖ふあり

一いさあよ　(メ)　けいろんあり

一いさく先よ　(メ)　かりそめと一伝ぐ　ちとあり

いさくとれ抽ぐと云ふ云但の伝あり

ヲ△いさめふひ抽とたれ濃ふさけろ義波一表云あり

日△まれ抽つろ抽いさくめふかりわれせんとつろけめやん

一いとひあよ　(メ)　事代主ろのむもあり

一いちめよ　(メ)　阿ケ江女あり源氏ふあり

一いそれとよ　(三)　いそれとふろれと云波くく羽あり

一いさくの神よ　(三)　石濃神と云天河のぐこくふ伝

神あり又いいされ方云

一いさく波とハ　三　わさ記波こゝ細うゐう波さゞあこゝ
一いさゝゐあことハ　三　さりのゑ名あり
一いさゝゐあこよ　三　さいさらへまさろち飛あり
一いさゝ丸海よハ　三　生死乃こゝあり
一いわくのうこゝよハ　三　養人あり伏丸と云枕河あり
一いゐあことハ　三　いゐふたこゝやとこゝふちんゝやこゝ
一いりこゝとハ　三　めぐこゝあり
一いりこゝとハ　三　滝あんノ
一いこゝぐこゝ丸とハ　三　磐魚こゝあり
一石ふゐう分とハ　三　背負婦あり走軍小浦て幸くゆく
うち女幼きゝをぐて武昌乃小山まで送ろ丈の乃と
ゐこゝ幸こゝ丸走ゐうとあり　ゐ書こゝあこゝ丸てやぐて

石とゐこゝりこゝ丸人の三こゝぐこゝ丸ち波山と
ゐ丸走山と云うち丸石と望まう丈石と云武昌乃小山ふあり
○おゐの背松浦さゝ飛ぐひれゐう山ふあり
ゐ吳域同月の拾ぐこゝりあり
一泉川のこゝとハ　三　本津川のこゝ丸こゝあり
一いこゝぐこゝとハ　三　いこ成あゐくこゝさこゝ入ひこゝあこゝ丸云
一いひこゝとハ　三　こゝるふあゝぐどいひこゝとこゝ云数
一いりのこゝとハ　三　法華経大師の疏ふいりりのち
ひこゝりて女のひぐふぬり女のふ貝ある時へあゝ人丸
拾ちゝこゝ云り拾ふ貝ちと云貝へ女乃居ゐあれハ
中優ひこゝる博物志いりふ朱とうひてあゝ色
こゝ血ひこゝりて女の乃ふぬれハ一移乃ゐ拾こゝあり

ら女乃ふ貝あり時ときへてうすりといとり 内外の説あり
〈ちりあのよたぐさてつ四岩ものわせあいいろ〈ぶこ〉ん 是ハ大原の説なり
〈わせあれ我ぬりろんりあてのいろりを 是ハ博物志の説なり
一いを稱しよ ㊀ うりふを稱ろ〈ん
一岩切とそしよ ㊀ 岩ふせろれてあることろ
一岩切門岩切とそ行あのをあ〈で 是ハ左あれ 俗人名
一いぶせしよ ㊀ 酒ろあ一さ稱し又なろりしをも
又ようれろ茨又元紫ふ紫あれるす ふちんあろと云るし
一いさしよ ㊀ 功の字し八金に帝ふ忠功ろをし
一いぶしよ ㊀ 妻ろんふ富あり又いぶりた云
一いろぶしよ ㊀ 額者よし云紙女房とふ
一いりさねひよ ㊀ 女のしをろ時ちぶふさろ者と云り

一いでの木ひよ ㊀ 女ふやくをそ牡ろ紫ひも
一いりあひよ ㊀ 入相 晩鐘 ろれてのをあり
一いさをひよ ㊀ やををふあ〈ろ
一いさり史よ ㊀ 求合史 漁史 釣ふふ史 ろれ
一いろひよ ㊀ 見ひ
一いり(井)よ ㊀ 解志 特をを云 繁の字し あるこ
一いの字をよ ㊀ 鉢子 ろれをあ〈ぐ
くまぐ〈ろ雲ひいあり
一いさ〈ふ雲よ ㊀ まふ〈くもあり
一いかぐれ雲よ ㊀ 又のあり雲の字ひ極あり雲の字び
一いりもよ ㊀ 常住 恒 川上のあり雲花と
〈いりでん牛ハ白ろ丸 ろ〈ハさで藻のふし
ろ〈ふをろ丸ろ丸ろ丸

一いれひもハ　㊐ 指袋のひもにいりぐ指袋のひもあり
一いとこそやもハ　㊐ 気早あり
一いもハ　㊐ 女のくせあり 妹あり
一ゆげのたちともハ　㊐ 栖あり 天照太神の法栖あり
一あぶ乃風ハ　㊐ あぶくの紙法あり みなかもあたあも
△あぶをあるね物ゝこゞ
△久ゝ所月のゝゝ
毛ハ蔭ゝ氏の奇
数を打ゝ及ゝ
斎才 斎参のゝ
一い毛ハ　㊐ いやゝ
△いかたいゝこゞ

存ぜやのゝりゝ女とゝかたゝ物ゝたゝいひゝ
一いとゝ毛ハ　㊐ 文百年物
一ゝいひゝとハ　㊐ いひぐゝ
一ゝいゝ物ゝとハ　㊐ あゝ
一いゝ毛ゝすハ　㊐ 祇
一いゝとゝハ　㊐ 琴
○ゝ
一ゝゝゝハ　㊐ ゝゝゝあり
○は
一ゝゝゝハ　㊐ あのあゝあん
一ゝあゝ物ゝハ　㊐ ひゝゝ

一そうべよ　㊀芙乃けしさまり

一くるハよ　㊁山のさしいでる武蔵國にあり

一花乃あふよ　㊂梅の事あり

一花まひの事ふよ　㊂花もひの事あり

△行成と云方人ふ物語　我そなたそこ白く咲るハ何の花そも

色ハ梅咲くら紙を方人ふ何の花ぞと問られて

△芙蓉れいのべふ花咲くれとあるハ花まいの事ふ芙蓉の名

花二首あり　旋花芙蓉文七夕

云事のふハ花もひの事ふ　紙さうん花の名ふ

らびと云　貴賤ふ云り　藤袴と云　俱舎

一そうべよ　㊁あるハ紀奥あり　藤袴と云　俱舎

あり元日ふ九月ふ作の長濱ふ恒例ふ

一そうべよ　㊁芙ふ芙と云事あり

一花ちり里よ　㊁芙ふ芙さどろ個あり

△あるとちりぬ花ぞ咲ぬ　㊁中川のあらしふ花の名里ハ花ちり

一芙のみ事ふ　㊁芙の花れ行ふ秋の月ふ同事あり

ふ芙ふあふず芙蓉　㊁秋月といふあり

一花乃ほふよ　㊁菊乃ふの事あり

一ぐるの事よ　㊁大門乃庭ふ萩と植ふ作ふ

一ふよ　㊁吉野三春氏乃人あり

一そうりよ　㊁たぐふ萩ふ植ふ作ふ

一くさのちよ　㊁そさふ事ふ芙のふ事あり

一ぐし地よ　㊁あふ芙ふ事あり

一 ○たてまつる ハ　(リ)　ゐなかくさきもんえもん

ゆふくろうといふものあり

一 そばふふのあり付ハ　(リ)　萩とそこ柴中へ入る付ものあり

一 ○くるまちあるハ　(リ)　人をおしころす紙若ふ剣にてきる殺あり

一 そこうりハ　(リ)　田植ものゆへ人の名にもあり

一 そこそばりハ　(リ)　そこそば毋ふこと本のトいとばるの

ふふもあり　長谷の毋娘のさうしく世々の新く　二書付あり

△本のトに書あり　そこの本の表の紙をたみよ

そのうへ人書てやうさうしとうこをたみよこと

建仁寺開山長西和尚入滅のはもろうこそ

△ふこしの指色さびしく見れの指のとの紙表やこあり

一 ○花の中のやどりハ　(リ)　蓮の世界と極楽とこと

一 ○ちちもの宿ハ　(下)　どくらくとこと古ふ物あり

一 そぶりハ　(リ)　蕣と去そうふりとよむ

一 そどもうつる変ハ　(リ)　咲雲乃名あり

一 花やうあうハ　(リ)　そふくく変ふ　西花ふあり

一 そこいとこれうハ　(リ)　変のとこれうこ　紫ふわくのうね絞

一 そうふハ　(リ)　たがうあり人とうふとよむ

一 そうしゝ書ハ　(カ)　いろくの花をたぐうまでなり

宗云とやふふくく時ふうこうとひろめて蔵ていうこ

一 そふうハ　(カ)　名乳名あり絞あり

一 そうこハ　(ヌ)　物の字ふまくこ虎こ何の脚

古　△時名ふ参考べあうちふくねさまね名ともうこ

医　△麻衣こ元湯りみこ表とふとうもんこ

一そうのもぐさ　（又）そうてきなり
一そうぶれ　（レ）素ぶれ　ぶれとは云へども各ぶれ各ぶれ同
　されども各ぶれ秋ぶれとは云べし
一そうのうれ　（ロ）本と云乃ち中なり
一そうぶれそ　（ソ）さう出さる歌なり　イニ花を衣出さる
一そうく　（ツ）そうくと云あり秋なり
一そうそう　（ツ）山畠なり
一そうの中の繰　（ヲ）林繰は云同なり又蜂のすとも云
一そうやう　（子）あしそうやうなり
一そうぐう　（手）美篠形なりそうは坊の字なり
一そうと花　（十）そうもとも云とも云とも云とも
　ぐれ水とふるうん世ふそまねんとば遊蒙乃清流水生
　じ物〳〵きふ水まざるんきふんとふとりて物
　そうんふそは物ぐう蒙やもおとあきひくしと云
　あざひくしんぐ蒙とうんとあべてれあざひてしと云六地ス
一花ぐう　（ラ）柳ふそ花ぐうん三月三日ぐん
　うりうれ物りうふりのあざりとも云○正花ふ物
一そうぐう　（ラ）蒙振ぐう物
一そうれぐう　（ラ）たうれそうぐう見仲正ぐ蒙ふ
　そうのもぐとはさうれとそうぐうと云花そうれとうあり
一そうぐう　（ラ）同腹　同胞　朋法ぐく云兄弟と一腹
一花兄ぐう　（ラ）花兄と書花兄乃法ぐ物
一そうぐう　（ラ）まぐう物乃蒙ニ蘭と云

△やすらへ　和名抄
△ちのさとの奥　ちさとの奥
△ねもとの　ねもとの方
△大内清原反乃和方
△倭刑　海部の名
△海部　海部の名
△嬬　嬬とは妻
△嬬　嬬とは妻
△嬬　嬬とは妻

△[illegible]の木のかげ[illegible]
解官とくとどめられて[illegible]
たびの表の頃第月とうひまもり奇なり

一[illegible]梅のこやよ　(ヤ) 宋伏(ハミフ)のかな　古堀(ハミフ)かな書

一花やまよ　(ヤ) 都のづ山ふる花(ハサ)山なり　祇園(ヒヒトウ)

一[illegible]の山よ　(ヤ) 他人乃宿山なり又紀州(ヒヒトウ)なり[illegible]

みどりまし[illegible]とてしてなり

一[illegible]なり　(ヤ) 紅[illegible]なり

一[illegible]よ　(ヤ) 三熊野(ミクマノ)のうらにたまんは紙のうらに

いとをかしきなりて色ぐろ紙なり

一花とそふよ　(ヤ) [illegible]なり

一[illegible]よ　(ヤ) いかとかくなり

一[illegible]よ　(ヤ) 出のそふ[illegible]又甸(ハミフ)通と嬰児(ミトリコ)の乃良なり

一花乃[illegible]よ　(ヤ) [illegible]なり花いろやまいてこ[illegible]

一[illegible]よ　(ヤ) 紙ふ[illegible]人なり

一[illegible]よ　(ヤ) [illegible]なり表なり

一[illegible]よ　(ヤ) 木のもとにめ[illegible]なり[illegible]

一[illegible]のえよ　(ヤ) 花のえなり

一表[illegible]てよ　(ヤ) 表ふかくなるなり

一[illegible]ふあげてよ　(ヤ) いかなりく和なり[illegible]のもとに紙く

[illegible]変表川とそふあげてなるやなり

一[illegible]よ　(ヤ) わざ[illegible]

一花の種よ　(ヤ) [illegible]神と花いはめなる用

一[illegible]よ　(ヤ) [illegible]

[illegible]

(廿) がくんあり世日とかぎりてさくあり

[illegible]

(廿) 山擬の内の麻の[illegible] 但[illegible]

[illegible]

△[illegible]の[illegible]

一 涙おちぐさの[illegible] (廿) さぐ[illegible]

[illegible]

△白涙の涙おちぐさの[illegible]

△八[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

(廿) 源氏ふもとうたるもとひとり

[illegible]

(廿) 芦[illegible]と云あり涙[illegible]

(廿) 八月の[illegible]月[illegible]又八月の

[illegible]月の字ふ[illegible]と[illegible]と云[illegible]

[illegible]

(廿) [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

雲ふれ接ふあるずす涙ふかろれ多り

一こんの本よ　㊥ 弁とうるぐ本こ又抱と浪とさかり

一もぐ紙よ　㊥ もぐさぐくまかとくんくまべ前

乃字と出かつりろとこむもぐくこい器せろんありの

有器せ云源氏ふ多ふるもとこるもとこるぐどこぐ

とふくありもくくこぐの本ふありるの病んとこく形

とのくくやうにもる紙云こみわまきくんこ多どこれこんこ

一もぐれ者よ　㊥ 規高ぐ本ぐ本ぐありくこ高ありくこ

じれ高ふろあどこくこみ波せるれるふを中四万義二

△ころ乃もこぐれあり拾かひけふいも

円丸へ紙右のとりの花り沢ふ義こぐれのいまぐ拾りろも

一こふまぐろさ　㊥ こふろこれ多りくるもこくこのま

こあれころふこれもこのくこやくこふあり

一ころ拾よ　㊥ 堂墓ひふくわぐろんあり

一こ波ひくこ拾よ　㊥ 涙ふこる撥あり八出三万ささこりひこれ

一こくくこ拾よ　㊥ こふこのくくここんあり

一こここくこ拾よ　㊥ こふこくくこ紙乃ふ

一こあこ乃拾よ　㊥ 文字一じつく出こふあるひいこふ

ふ一ふふまこれ出こもこ数書こ又幼こ乃ふまこ

一こふ付めよ　㊥ 花絵こ出花と数さこと奈ぐころも

一こ付せめよ　㊥ 女これわくずこ付せの山振あり

一こくこふめよ　㊥ こぐこくむろあ紙あり

一こ付この続よ　㊥ 山こふの高ありあこ紙尾どこけここ云

紙尾のぐ乃こ山こ乃紙ふ絵とけて垂ば紙こげと

[illegible]くとつふちゝ[illegible]あり又山ゐゝ[illegible]と

花のぐゝ[illegible]　㊂　花乃[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]と花のかゝ[illegible]と云

年とて花乃[illegible]と[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ん[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

花とりちらしたるもの　(ヒ)　花乃之石よりの
一　ちぐれ　(ヒ)　ちぐれてたる　敬詩と出るや
ちぐれ　(ヒ)　ちぐれてたる　敬詩と出るや
ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
△ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
一　ちぐれ　(ヒ)　茶なる事あり
一　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
一　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
年のちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
一　搭接のちぐれ　(ヒ)　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
一　ちぐれの事　(ヒ)　漂事と云ちぐれの事　中級ちぐれ

一　花とり衣　(モ)　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
一　ちぐれ　(モ)　敵縁あり
一　ちぐれ　(セ)　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
一　ちぐれ　(ス)　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
一　ちぐれ　(ス)　蘭ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
ちぐれ　(ス)　かやぐるなりちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
げまし　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
一　ちぐれ　(ス)　たぐひ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
一　花のちぐれ　(ス)　花ホ紙と付さく　ちぐれ　ちぐれ
一　花とかざす　(ス)　花とうぐいすとの　ちぐれ　ちぐれ
△ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ
△かざす　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ　ちぐれ

一くさとのゝ花とかつらとよ ㋕ 沈翼 注 ゆり

○に

一ゆくゝ井よ ㋑ 紅ゆるゝ風つゝ紀ゆ川 張付 云

一みどめる文よ ㋺ うすきゝんぶくろ紙 ふ云るゆり

一うすゝゝつゝゆり服 ニウ ゆり

一みゝ河よ ㋩ 新乃みゝ川ゆり 拯河 ゆり

一ゆゝ文よ ㋬ 和 ヤマト と云七夕の歌ゝ 文 布 大

一庭乃とゝ人よ ㋭ 梅 キヨ 絵 ヒ 紀 ワリ 繪 ワリ 過 スグ 庭 ニハ と云るゆり 元

一ゆゝ紀ゆり 孔 カウ ゝ乃 ノ 義 ヨシ ゆり 紀 ノ 義 ヨシ 新 ノ 義 ヨシ 拾 ゆ 古

一みゝ紀さゝよ ㋮ 彼 カレ 中 ナカ 国 ニ 万 マン 里 サト ゆり

一ゆゝ紀琴よ ㋯ 七夕のよ向ゆ庭ゆ ニワ 立 タツ ゆゝ琴 コト ゆり

一ゆゝ紀ゆよ

一ゆゝ紀ゆよ

一ゆゝ紀ゆよ

一 みちのくに よ　㋐ 牧乃ゐも二ヒ八ゑり八ゑ ふまくら
くやとあり又ちめて空たゝり 時ゐの 葵ゐ ゐ
一 みげあよ　㋑ ちんとゝれがゐぐゐあゝ赤 風ふを
一 みはさゝよ　㋒ 庭掃と云草あり
一 ふゐまくゝよ　㋓ ちでめて 契るまくゝと云
一 みげゐくよ　㋔ 似合ぬるゐあり
一 ふちゝくよ　㋕ みゐらゝく 空ゐり
一 みちくよ　㋖ 二ゐ紀と云るゐり
一 ふゐかれゐよ　㋗ 新 為とゐり万葉よゐり
一 みぶ乃山よ　㋘ みぶ川 大和にあり
一 みゝさるよ　㋙ みゝさゐんを 恋の媒 又 麻の花
一 ふゐまよ　㋚ 新 為ちい 流人ゐり 左を

一 みゝきれ車よ　㋛ 天照 神乃 服 御 ふ 車と 紋ふ
・ 織ゐりとゝ乃ゐ乃ゐゝきゝあり
一 ゐびゝふよ　㋜ 緞ゐりゐ民乃さゝんゐる 秋ゐり
ゝ紀 葵ゐのゐりてゝれい 懐 民のかまどい 張 ふゝり 仁 酒 蓋
一 ふゝふこよ　㋝ 紀ゝの女ゝ八ゑ ふゐふゐとあり
一 みゝさゐよ　㋞ ふゝさ 緞 乃中ゐつゝゝるゐゐり
一 みゝよ　㋟ 万葉ふゐゝ葵の花のつゝまれゐゝゝり
一 みゝてよ　㋠ 冊 木ゝと云 帷 白 帷 ゝ 帷
一 みはゐ葵よ　㋡ 萩乃るゐ 庭 葵とゝ
一 みゝこゝ木よ　㋢ ゐゐ女乃門ふゐゐ赤ゐみゝとゐも同ゐ
八ゑ ゝ 絲 赤い 相 杵 葵乃 相ゐりと以 大 ゑ 紀 ゐゝ
ゝ 後 教 物ふゐり 紀 昭 紀 流 ゝ ゐゝの 麦 男 女 ゐ ん

とくふくとゆうとべとゝ云こむと一又ぐりのまとまぐ
ふ紙色ゝ女乃門ふ三ゝ有りあらんと云ふ男あわし
やくゝれ又ゝ有りゝあわりゝと云人いふうに有りてとゝれ
入どゝあらんに有りて三ゝ紙袖中（ミツチウ）ねふあり
みゝとゝと云紙袖中（ミツチウ）ねふあり
△とひゝとゝふ三ゝ紙乃ゝ紙ふのとうゝ紙ゝあふゝしゝふ 臣房
△紙ふい三ゝ紙ゝ有ゝ三ゝ紙ゝ社行ふゝ紙ゝ細布ひゝあわゝ紙ゝ 紙屋
△法ふちゝ行ぬゝ紙ふゝ紙ふゝ紙ふ

一外ろいろハ　(ロ)野ハ穂ふうりのさかりとあり
一知れうしハ　(ハ)穂ふ出てるるなりあり
一佛の型ら雑阪ハ　(ハ)津国ふわらず大和の雑ハ堀江
一ほつくもの縄ハ　(ハ)帆ぐら立ふ中にうりかりふと
きホるるいふうり
一ろれハ　(二)穂ふ張れるふくこれと穂ふを大
ふと帆ふもこくこまり
古　△秋のふれ穂ふ社人とひさめふくふ立れとでん
万　△見渡せば明石の浦ふ月の夫の火に社出ありて糸しも
古　△秋風ふ美と帆ふ張てる舟ハ夫の戸波ら乃ふ出ぐるる
一ろくハ　(ト)張ふり
一かるのくもり　(リ)ふ

一ろれ出るハ　(ル)ふりるるふり
一ふりとるふりあり　(ル)帝王元日の暁星と行ふふり
一ふれるふ閉ハ　(ル)ふふくさふり
一ふりるるハ　(ル)ふくくさふり
一ふやつるハ　(ル)秋ふり七月七日伝列みさ山祭り
ほるかり屋ふり
一ふれゆるハ　(ル)寿乃名ふり
一蛍光うもるハ　(ル)うひ地ふや文学と穂ふ出ととふふ
一ふりてふりハ　(カ)義人のうろねうら衣のやう氷地
一佛のもれハ　(ヒ)二月十五日ふり
一ふりのふハ　(子)七夕乃糸ふり
一ふそらハ　(ヲ)成ふり

一かひしらず　㋐ひのはりあり　ひるの乃はりあり
時世のさしらるるぐさ　るるるるれい意服紙さそまり
るるるるる服とるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
へ人家ちぐさ成胸れかむしたてるる書成の衣さよ表
一かぐらしく　㋐わるさるる
一かるそぐれ　㋐廊乃るるり細成なり
一かるれしく　㋐若くるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
一かるれ先く　㋐成明と出るかれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
一かるとるぐしく　㋐長チウ長ヤリ動て表ふ付るるるる大中長懸宣
速瘍乃奇
へ年之さ里成てぐく長髮の人るるれ成ふるるふ
一かるくしく　㋐るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

元るるぐまるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

ほそをてよ　㋐　ほそうまきつけるなり

かてよ　㋑　牧と書つけるなり

かいあくてよ　㋒　おきふかくあらくしかいあくてとゆるくと

ゆいあくてとゆるくなり

ありて又ものいてとゆるくふんとなり

かやのさきよ　㋓　祢あるもの蔵ゆて作ると云

かれんつ月よ　㋔　かれたるなり

かとさよ　㋕　枝乃ゆなり

かそめくもあよ　㋖　大唐ふ祢ふ奏と書り祢ふ

かるめよ　㋗　秋の田一方ふ刈ぶ祢ふ

かゆがよ　㋘　方曲なり　源氏ものあくふかりゆがめ

てゆるを書ゆゆとゆくゆをかくゆをとゆんなり

かるよ　㋙　ひえどりよ戸とゆ茅なり

かるよ　㋚　ねふつかれてかのふさ海ふかるを

かるとゆゆくかれたるとひゆくかれいかほるゆ

△義ふるゆ社ふて世中とゆひゆれかるかれ

△世ふかるゆふ人社かるかれ

真字伝野物語に狩衣と云又結の字とも書

かるよ　㋛　野ふ狩衣と云

麻と云れかりゆ実串なり

かれよ　㋜　かれたるなり

かるよ　㋝　かるかるなり

かくまよ　㋞　稿のつるこれかれもとびてつるこれ

かるよ　㋟　木乃枝のとゆをこれかるかりゆ

一 ㋐ 七月七日乃秋なり
一 ㋑ かくこそあれなり

○へ

一 ㋒ 海ほとり
一 ㋓ そこなり海あてこの海なること
一 ㋔ 魚しこ可と云ふなり
一 ㋕ 魚こと云も同じ
一 ㋖ 甲斐國ふわりみちのくまもる
一 ㋗ 秋出いくふ
一 ㋘ 海まなり

○と

一 ㋙ 宿
一 ㋚ 宿屋なり 秋つくるやどるなり
一 ㋛ 宿屋人乃名なと裏ふ書付たり
源氏三ケ乃大つもたり
一 ㋜ どう 古 ㋝ 銘乃ぞくくんと文もとそろ乃ぞ
△ 八月毎の花もとそろ乃みな紙紙とそ
△ 天原ふとそろ中といとろ紙なは
一 ㋞ とし乃こと ㋟ 年毎なり 万葉ふなり
万十九 △ 年のとしたとまつ拾ゆへ紙くいたとわろ月のおはた
月二十 △ 紙三月十九日の年 宿屋山吹はてあ
月二十 △ とし乃はしかくもとそ乃三ケ月の白波

一〻とよ年乃こと　(ハ)たゝ年あり
一〻とたれいあたゝ　(ハ)ゝでとたいあるこゝ
一とたゝ　(ハ)牧こゝろそとゝあるくゝあり
一〻とこゝは　(ハ)常不愛と書又茲のこゝ常みと
ふゝありとこゝ　(ハ)常ゝ　(ハ)常ゝ　(ハ)常ゝ　(ハ)常ゝ　(ハ)常ゝ
一〻とゝ　(ハ)常ゝ　(ハ)常ゝ　(ハ)常ゝ　(ハ)常ゝ　(ハ)常ゝ
一〻とゝくふ　(ニ)左右とゝくゝ
一とたふ日ゝ　(ニ)吋毎日毎ゝたり
一〻とゝくふ　(ニ)ゝゝあるこゝ
一とゝたくふ　(ニ)日ゝ紀ゝ茲ゝ幕と云り只とたいあるこゝ
一〻とゝ　(ハ)茲ゝ　(ハ)茲ゝ　(ハ)茲ゝ　(ハ)茲ゝ　(ハ)茲ゝ
一とゝあへ　(ハ)とゝあめとゝしゝあゝゝあるゝ

一とこゝみうゝ　(ト)帯乃ゝ左右あり方茶ゝあり
一とたみうゝ　(ト)約束と書てゝむあり
一とゝたゝあへ　(ト)中間あり　馬左云あり
一〻とゝあへ　(ト)とゝよゝ用出家ゝあつゝゝ岩ゝ左祈
ゝゝとゝよ年あゝゝ家用おあり
一とゝ人　(ト)百ゝ富人あり
一とゝ人　(ト)友ゝゝあり
一ゝたれあゝ　(ト)ゝ家あり

△拾ゝれゝゝゝゝゝゝ演劇今ハ夢社ゝまゝゝゝ
潮ゝの事ゝ見ゝて　宗遠院松山乃配ゝまゝゝゝゝゝゝゝ
△演劇拾い新ゝかゝゝゝゝゝゝゝ

一、[illegible]　(千)　[illegible]

一、[illegible]　(千)　[illegible]

△[illegible]

[illegible]八一年[illegible]

一、[illegible]　(千)　[illegible]

一、[illegible]　(千)　市[illegible]

一、[illegible]　(千)　[illegible]

一、[illegible]　(千)　十[illegible]

一、[illegible]　(リ)　[illegible]

一、[illegible]　(リ)　[illegible]

一、[illegible]　(リ)　

一 年ゝゝ乃間ハ
一 ゝゝよさゝの笠ハ
ゝゝゝ月ゝゝ

(九) 年乃極ゝ出ゝゝ間ゝゝ絶ゝゝゝ
(九) 日の出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 多ゝゝゝゝゝ
一 ゝゝゝゝゝゝ
一 ゝゝゝゝゝ
一 ゝゝゝゝゝ
一 ゝゝゝゝ

(九) 多乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
(九) 橋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
(九) 備ゝゝゝゝゝゝゝゝ
(九) 多ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
(ヲ) ゝゝ年ゝゝゝゝゝゝゝゝ
(ヲ) 尾ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

八雲ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

是ハ山上橋ノ松ノ西浦川ノ遺跡ニ
弱ノ如キ女ノ名アリ
家ノ名ノ
て云ふ弱ノ里ニ
あそぶ名ノ
國ノ小乃せいし
國名ノ
一 ○ 是ハ名ノ
とこ名ノ
常と云字ハ又
一 ○ 時ハ名ノ
△ 時ハ名ノ

一 ○ 是ハ名ノ
一 ○ 是ハ名ノ
一 ○ 是ハ名ノ
一 ○ 十ノ名ノ
一 ○ 年ハ名ノ
△ 宮殿ノ年ハ
△ 十年ノ名ノ
一 ○ 是ハ名ノ
△ 是ハ名ノ

[illegible]

(ヨ) 清水納豆の條ふるこ蓮華寺と云人
奈とのゞれて安國ふ神ゆ時歌函岩ふく庵名れまも
とゝれゞ實ゲ[illegible]の庵名とくく夢と出て帰いき
名れ實ゲ見と庵て實とゆ名故雞とのゞれ海
一 ゆゝしび花ハ (ナ) 光と云ゆり千ゞがゝら花
一 ゆゝこゆ門の花ハ (ナ) 四時美と出夜秋い高ゞゝ心 芸香い赤よまと
一 ゆ式の花ゝ家ハ (ナ) ゆ式ゝ紙ゝ名ゝ家ゆり
一 ゆゝよゝゝ桃ハ (ラ) 八重ふあり
一 ゆ式ゝの桃ハ (ラ) 小麦ゝゝゝ麦ゝゝ花あり
一 ゆゝりゝゝハ (ラ) 名ゝ出ゝゝいゆとゆ家
一 ゆゝゝゝハ (ラ) 撫子ゝゝゝ

多い所なるの嶽と云ふ　㊀ 赤天先と乃と云

一外山よハ　㊁ 添かるぬ山あり

△添かるぬ外山乃麓の福光ぐらと云ふ木の多ハ有めり

一多賀新山よハ　㊂ 搾井ニ秋ニ赤山あるう峯乃もとを

とゝゝゝれど今ハ清多大谷乃もとを云多賀野と云

一とげよハ　㊃ 常陽ケ池ハ張た出り常ふ田の

張多ゝあり。山乃とゝげとゝあり

一多ゝけふよハ　㊄ それゝ鷲ケ峯と多叫とく

又遥多ゝ稍多り

一とゝで張よハ　㊅ とり出張ふあり

一とりまふよハ　㊆ とりとめゝる多り

一とれゝゝよハ　㊇ 張目濱て使新と云と乃張ゝを

一ゝ紙ゝ乃よハ　㊈ ゝゝ紙乃と切ゝ

一とゝ多り男よハ　㊉ 業平乃張多り

一とゝゝえよハ　㊊ ゝゝよゝゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一とゝめてよハ　㊋ 乃ゝふ

一とゝゝゝゝよハ　㊌ 乃多り又ゝゝた云ふあり

ゝゝ多り赤木切ゝ木ゝゝ乃張ふ木ゝ桜と撥

と云多ゝと書ゝ又百姓十七ゝゝゝゝ木切と云

ゝゝ撥山ゝゝゝ丈作多ゝと書り色の百姓の

多ゝゝ乃ゝゝゝ木乃撥多り柚ゝ入木と切て

かゝゝゝ木乃末と切て切ゝ木の張ふゝゝ多り

△ゝゝゝ乃新木ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

△ちぎさ三見栖山ふ五本切ふ木ふ切ふ切ふ切

一 [illegible]よ ㊥ 敷名栄と文書のるとあの枝竹ぞふ
一 [illegible]よみさよ ㊥ [illegible]あり 巻出酒
一 [illegible]いくりだよ ㊥ 美芩と云水あり [illegible]
年よつむ月よ ㊥ 十二月なり
一 やとめよ ㊥ あとあ[illegible]ことあめ[illegible]
一 [illegible]あめよ ㊥ 表庭乃石あり 表[illegible]三ツ 常に滑クミ
一 [illegible]り郷よ ㊥ 時ぐり[illegible]ぐりあり
一 [illegible]り郷よ ㊥ 武部の舞女 天照太神を云
一 [illegible]郷よ ㊥ 波海神の女 [illegible]の妃なり
一 [illegible]郷よ ㊥ 七夕乃[illegible]あり
一 [illegible]ちめよ ㊥ [illegible]せの山郷[illegible]
一 [illegible]ハ名よ ㊥ 年ハ面あり

一 [illegible]よ ㊥ 郡乃[illegible]
一 [illegible]よ ㊥ 恵[illegible]あり 郷並山ハ紙中にあり
一 [illegible]よ ㊥ 荒[illegible]角[illegible]
一 [illegible]よ ㊥ 年並月次日次同あり
一 [illegible]よ ㊥ [illegible]郷名と云あり
一 [illegible]よ ㊥ [illegible]なるあり
一 [illegible]よ ㊥ [illegible]郷あり
一 [illegible]よ ㊥ [illegible]
一 [illegible]よ ㊥ 美[illegible]
一 [illegible]りしよ ㊥ 郡[illegible]
まて[illegible]乃[illegible]
一 [illegible]よ ㊥ 友山乃[illegible]八雲に夫小[illegible]

さて具とて云りされた生れ不祥とり祈て古風お
一とあうう　ヒ　(ヒ)　俗本うーと云弱朱ようーあり
△あうう花の蕊の紙帯どうとくとくのあるお社れ
一うれくひよ　(ヒ)　うれくひまあり　指生　絵のお大例のれ
湯くいるすとかくーー録ゆてよめろ奇
△うれまいまく雑あるーうていあくひのあるいとゆ変ー
△とゆ当ゆとゆいらぶれとくひうぶくとあるーと社こけ
れくくうくくひくいろるかひあるー
一十月まひよ　(ヒ)　十月あまりあり
一らうくひよ　(ヒ)　帯　礼のゆ　源氏ゆ　ひゆ
一とぶれうとくとよ　(モ)　奥別　とぶれ秋乃十ゆゆあるうとと
乃ゆまれど無ゆとくむ若又但馬ゆ古云り

一とよくうと雲よ　(モ)　磐　繊　雲　とゆ　撮　雲　とゆ　ゆのとゆ
一うーとよ　(モ)　うくーうくーと云ーあり
一とくくよ　(モ)　とくあくくん　時ひ紙とくくとくとくこ
一とくゆ風よ　(せ)　時乃風あり　夜風十夜の時とぶ(俗)
一うりかせよ　(せ)　源氏うくゆ本くゆ書ゆとうあるいはゆくゆ
これとくとぶめれんくとくありとうくうあーくくれば
あくくくくくくくゆ

○ち

一ちゆ乃のくく縄よ　(ハ)　矢乃むとびの三ゆの結ぶりの時百指
びみーて付ーとうり
一ちゆくよ　(ハ)　茅縄　水七月のくくくの具

一ちくさふよハ　㊁ さゝ原くまゝ八雲やうくみし
一ちゝの柏ぐよ　㊀ 紙仕大原紙 絹ちく 綾文 仕るゝ云
一ちゝや人よハ　㊀ 万葉こゝ治ふあり
一ちりひゞよハ　㊁ 八雲ニ塵泥とゝるもゝ乃るも
物ちゝめと云うゝ紙山を ぬりゝ乃ちりのゞより
地ゝ乃と云い茶は乃門て山ゝなるゝ
一ちゝくなまりよ　㊀ 紀ニ所とく禁中ニ在茶ゝの近来司
一ちりぐりよハ　㊀ ゝゝゝだりあり
一ちりの地ゝりよハ　㊀ いさゝゝある隠れといるも
一ちゝ乃ぐりよ　㊀ 強ゝりすふ紙と和て有りと
さてくゝを結と付さゝるゝなり
一ちりくゝるよ　㊀ ちぐり略り

一ちくやゆりよハ　㊁ 紙ハ 茅屋紙 茅葉屋紙 文紙屋紙
ふゞ振ゆぐゝ云久ゝさゝる 作ゝ 松ゝ云 地ゝ べゝり
一ちりかひ茶ちよハ　㊀ ちりゞゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
一ちひろふくよハ　㊁ 紙ハ ふまゞ乃ゝ
一ちよれ坂よハ　㊀ ちゝ乃ゝゝひ久ゝ乃ゝ
一ちりのかゞ世よハ　㊂ 文 有 藝 紙 紙ゝり
一ちまくよハ　㊁ 巷 阡陌 ゝちの行ゞと云
一ちのゝゝぐよ　㊁ ゝゝぐゝて 紙血の ゝゝぐ 出ゝとゝり
和ゝ是とゝゝゝれても世ふゝと不ゝゝて 焼ゝ
一ちりゝひゝれよハ　㊀ かゝれゝれゝゝ 紙ゝゞふゝ
一ちゝゝひよハ　㊀ 紙ゝ ふ茶ゝゝ行屋
一ちゝふふよハ　㊀ 紙ハ 人ふ行 一人 帝千乃ゝり

一ちぐのあぐよ　㋔千あのあぐよりあり
一ちちくのうくよ　㋕立脇（たつわき）庵（いほり）乃（の）そくふあくず
　人どうくちくふ乃（の）うくふりうくと云
一ちまれの程（ほど）よ　㋖也（なり）本（もと）くらあり
一ちりてあよ　の（のり）欲（ほし）あり一樹（ゆき）よ　㋗非人（ひにん）の衣（ころも）ちくやけ
一ちくくく車よ　㋘おとあまくくて牛（うし）の引車（ひくるま）
一ちひろのぐよ　㋙行（ゆく）のすし多（たち）器（うつわ）来（きた）云（いう）り文（ふみ）紀（のり）弼（すけ）
　乃行（ゆく）り清（せい）涼（りう）及（および）乃（の）れおふうゆ紙（かみ）も云（いう）
一ちまれのをこよ　㋚祇（かぎり）乃（の）時（とき）絆（ほだし）と苔（こけ）のこたてまくく
一ちあ乃（の）程（ほど）こよ　㋛ちぬ乃（の）まもくと（とり）うあひ程（ほど）め
　ぐくあふいくこ門（かど）へ二人乃（の）ひくくし
一ちまれのそよ　㋜とまりあくあり

一ちぐくよ
　ちぐくあくくこ云（いう）ふくくう乃（の）ほくりひあり
△秋の来くくぐくとけば社山乃（の）木乃（の）もちくくる
△表（おもて）表（おもて）れ多（たち）程（ほど）乃（の）みてくくる引山の表井（おもてい）ぐ
一ちくとくくよ　㋝たぐぐくれる
一ちくくくよ　㋞ちあ乃（の）ぐこ付（つく）くる松（まつ）とい乃（の）あり
一ちのくれゆぐよ　㋟天照（てんしょう）太神（たいしん）乃（の）出（で）やかぐあり　報（ほう）
一ちぐくよ　㋠かくくぐこ社乃（の）上に行（ゆく）ちぐくくる木（き）
一ちよ木よ　㋡松（まつ）とふあり
一地しきよ　㋢さ（ささ）蓮（れん）庵（あん）蓮（れん）小大級（ちいさいだい）あ乃（の）あり
一ちくくるゆめよ　㋣梅乃（の）ぐこ付（つく）て云ふぐち河（かわ）のこて接（つぎ）い
　ちぬくくくよくくくこ云（いう）くくう梅乃（の）奇小

△大やけもゆるこゝろ　ひのこのもん酒もりこゝろ
色いむし　糸中　糸門　酒とのむる
禁じのふちゝ　一二人いゆるしゝ　ふもりかく傷る
一ちぐべしの祈ハ　㊂　陰祈かこれをもめぐりとひろへ
祈ものめぐかゝふ祈し法祈いざゝこれをし
一ちぐきゝハ　㊂　河石乃中　矣ゝ
一ちゝひのうゝハ　㊂　佛潮ゝ　仏法乃大海ゝ
一ちびゝの右ハ　㊂　千人ゝ　ちゝ引大石ゝ
一ちりもとへじハ　㊂　ちりもとへじ
一ちりゝ酒ハ　㊂　蔡乃つりゝ　ちゝ
一ちく絡ひハ　㊂　きりくゝ　ゝ
一ちくきゝ乃ハ　㊂　笛ふかぎゝ　ちゝ絡くゝ蔡ゝ

一ちり乃まゝひハ　㊂　薮内ざれゝ
一ちゝぎれひハ　㊂　母乃　ちゝ
一ちえのゝとハ　㊂　ゝ抜乃　ゝ

○り

一ちちのまゝべハ　㊂　秋ゝ乃　ハ秋冬　呂の表
○ぬ
一ぬさふゝハ　㊂　ゝ人ゝ　ゝ結びく　袋ゝ入
てゝゝとびゝ　ゝ
一ぬ多ハ　㊂　多ゝ　薄乃　ゝ
一ぬきゝハ　㊂　宿馬　楽乃　貫川

一 ぬとまへよハ　(八) 人ぐるまのこと

一 ぬしもとやよ　(卜) 袖ふけること

一 ぬくあるよハ　(川) たれそこ

寄ゐ物をとりへておぐ見をとあくめられぐ

をあるれとぐること見くを月を方へ乾て名をとりどり

一 ぬくさらいるよハ　(川) 偷起多　(スキタツ)　鶏にあひて夜のあけを見

一 ぬれ衣よハ　(又) 寄衣　(台詞)　濡衣　人乃科　(とが)　とをるなり

多紀名りと　多紀名と云とゝ人とも

未屋さうの多ゝど一位小袖ふいでんといひしげ面

ゆへ　ふらまりていでんとゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

古

△かぐ見しとゝふゝ多ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

△ぬれ衣ぬれ衣ふるとぬれ衣ふさとろ計の花ぬぐるゝ　決

見ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

一ぬぐくれとハ　㋐ 和と云物なれども五月あり
一ぬりぬきとハ　㋑ あるゐ絵と書くり和名
一ぬるぼくとハ　㋒ 額乃字なり神仏を礼おもるも
△あひだをあくとゐふハ大ち丸垣乃ちりゐぬるづくごと
△つまをあくるとハ大ち丸垣乃ちりゐぬるづくごと
ゐをあくつまをあくとゐふハ大ち丸仏乃正面をおもてち
垣丸ちりゐぬひちひぬるづくるむるごとくとんどくゐハ
ごとくとゐるもちゐかるるくず鍬むのすもゐゆへ
ゐ垣と鍬尾ゐをいひけりと云
一ぬろ玉とハ　㋓ 寝若くゐ出るの義とのゐり
一ぬば玉とハ　㋔ 万葉二和千玉と書和と云物なり
烏羽玉丸云和乃くろと鳥の羽にゐぞくへて云り

一ぬまとハ　㋕ あるゐぐれど歴ごとるの所なり
一ぬれぬ山とハ　㋖ 法くゐ名郎山乃ちゐ多りり
一ぬとまれ出とハ　㋗ ぬとまれ出るの義なり
一ぬれでとハ　㋘ 和撲乃境とごりて出ると云始へ合合云
一ぬさとハ　㋙ 清幣ゐ八云ぬさハ祝ゐ〜でと幣れと云
一ぬさくさとハ　㋚ あるゐ乃ちゐ多りり
一布おびとハ　㋛ 六位乃ちゐ多りり
一ぬくとハ　㋜ 盥乃上ニ竹をあてとくぬく貫義
とゐりくくハ云松ゐ用ひゐるゐあをおふゐ竹と云
乃やうゐあてたくハ乃とゐ和ゐり

○る

一 ろひひろくとハ　㋹ 一部乃ひろさとゝ云なり
一 ろりの名とハ　㊂ 毛ゞ〳〵の用法の典乃ちんべの名ゝ

○ を

一 とゝ名とハ　㊀ むゞ〳〵なり
一 とろとハ　㊁ ろ牛乃とろとゝなり
一 とろくさゝとハ　㊂ 大欲不ゝ大聲 會の時のゝ
一 とゝのつゞゞとハ　㊃ 漢白靈ゞ故ゝ少しゝ〳〵ゝ乃ゝ
　　ゝとゝふ明ゆく帝の龍と切ゆゝそれゝちの名なり
一 とさゝみゝとハ　㊄ 義義乃姫淫と法ゝ女ゝみゝゝとゝ
一 とゝ紀中川とハ　㊅ 川乃ゝ毛尾なり大河の海ゝゞれ入て
　　と於ゝゝとゝ乃ゝ名ゝ云ゝ乃ゝ

入名共沖中川乃紀ゝ名ゝゝゝ

一 とらとハ　㊀ あべていをとるをとゝされ共費ゝく
所ニてきをとりとゝ　とらとゝばいつゝとゝあべさるとゝ
あもい　ゆべ　あべさとゝいふゝ紙なり
一 とらちとハ　㊁ 小駝と云又八波大駝と云
一 とらのゝとハ　㊂ 蘇紙とゝく云卵乃ゝなり
一 とゝゝ　㊃ 鴨紙いふゝおゝゝめゝと云とあり
一 とゝゝひゝゝとハ　㊄ 中はゝゝなり
一 とゝゝやゝりとハ　㊅ みゝゝゝゝ四乃唐紙ゝゝゝ
一 とゝゝぶゝゝとハ　㊆ 茶紙と云柳ゝゝゝゝ
一 とゝゝえゝゝとハ　㊇ 晋乃王賢ゝ石家山乃板なり
一 とゝゝゝとハ　㊈ 椎長ト云生長ゝ椎ゝゝゝゝゝ
一 とゝゝてゝとハ　㊉ 塩海なり一説ニ雑波紙のゝゝと云

一 とゝ紙とハ　㊊ 晩田寺と云黒紙なゝ
一 とこゝゝゝとハ　㊋ 倭紙と事日本紀ゝあり
一 とゝゝけゝとハ　㊌ 彩ゝゝ紙なり
一 とゝゝゝ因とゝとハ　㊍ 勅撰のゝゝ　打撰と云
一 とゝゝかゝゝゝとハ　㊎ 老ゝゝゝゝなり
一 とゝゝゝゝとハ　㊏ ゝゝゝゝゝゝなり
一 とゝのゝゝとハ　㊐ 雑ゝゝゝゝゝゝゝゝと云
一 鬼のまゝとゝとハ　㊑ とゝゝゝゝゝゝなり
一 とゝゝゝとハ　㊒ ぐゝゝゝゝゝなり
一 とゝゝとハ　㊓ 大やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝなり
一 とゝゝゝゝとハ　㊔ ゝのゝゝ雑部ゝゝゝゝゝゝと云
一 とゝゝゝとハ　㊕ とゝゝゝゝなり

○ 紀行

一 ひびれよハ　㋕ ちくぶしんまり

一 ちくぶしんまれよハ　㋖ 川うそハ始ハいらびれて居ハいらひ

あみまれまりうそれびやうそれしと云又おふたうす

一 ちり姫乃ゑよハ　㋗ 余吾乃海ハ鶴ハ安あまくぐりで松ハ

衣をとりけしうまりあり　ひめのゑりあめりこもうゑ

一 ちくまゑゑよハ　㋘ 古今ハあの歌ハ花をとて濃ル

△ 年毎ハ春ハ　ゑをこゑ花をくまゑゑ雨ハ雨ハ　伊勢

△ 信濃ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ

△ 山川の間ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ

一 ちくハ井のゑよハ　㋙ 伊勢外宮ハ天河ハ

一 ちくやゑよハ　㋚ 河ハ雨ハ雨ハ風乃ゑ

一 ちくくよハ　㋛ 女ハ雨ハ

一 ちくちくが花よハ　㋜ 日本ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ

花ハ雨ハ　ゑハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ

一 ちくよハ　㋝ ちくまくハ

一 ちくまよハ　㋞ ちくハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ

一 ちくちくハ形よハ　㋟ ちくぐちくぐちくちくちく

一 とぶらひ　海ハ　(ヘ)　殿乃らんんのもの
一 ほとり　海ハ　(ヘ)　海ハ海ハ海ハ　(ヘ)　林代乃もの
一 とんか車ハ　(ヘ)　人絡と云車ニ　(ヘ)　別車ニ同もの
一 とぶちのとの海ハ　(ヘ)　奥列とぶちとのふ有り
一 とそそるハ　(ヘ)　有りさるなり
一 とよとげハ　(ヘ)　はとかりさんあり
一 とひ乃ろ　(ヘ)　鬼のまんのひ一のもの
一 とご　(ヘ)　とごの海ハ海ハ海ハ

一 とのさうぶきよハ　(キ) くろ木ゆ　紙ろ屋いさうさ海ふくも
一 ところ玉乃木よハ　(キ) 清水彫井乃河清水ゆ　巻ゆて
書紙ろ木も又正月松竹乃ろけ乃ろ木も又掛ゆも
いろ乃り　(キ) 鬼打木ゆ　大炭ゆ木ろくも
一 ごまたよ　(キ) 水玉木ゆ　山岩のろれ木も又ゆ生ゆハ
女乃ろむ魚そとゆ　紙張と牛
一 ところだよハ　(キ) うゆ紅と云ゆ　蒙ハ赤ゆんのゆくも
一 ふちを月よ　(キ) 木乃ろ月ハ　ゆろれ出ろ月ハまゆろ乃ゆ
一 ところきよハ　(キ) 清ろれ乃ゆ
一 ごまぶきよ　(キ) 清ろえのゆも　儿　机
一 ごゆしきよハ　(キ) 男ゆ　紅ゆ　雛ゆ布

一 ところ兎よハ　(メ) ところ女ゆ　織女と云乃ゆ　織姫と云乃ゆ　お通女
一 ところよハ　(メ) ところゆ七夕乃り
一 ところれよハ　(メ) ところゆい箱ところゆ乃ろ
一 ところがゆよハ　(ミ) 女乃り
一 ところまゆよ　(ミ) ところがゆ海ゆくもそれゆくも　日本記　各競
一 ところまゆよ　(レ) うゆろゆ　(レ) ろゆ乃ゆ　(レ) ろゆ乃ゆ　(レ) ろゆ乃

一 とわとかすひよハ　(と) とわとれとろるもり
一 とこざるもよハ　(モ) 舞人乃美ろ書とりの衣こ小忌衣
一 とれもよハ　(モ) とろれ書きりとろくふろ書ろ
一 とろすよハ　(ス) とくろすろ
一 とりこざとよ　(ス) 山ゐどみてんゐろとんも

○わ

一 若をへの文よハ　(ロ) ろろれをへの文もり
一 わろいよハ　(ハ) 遊遊と云 又宰乃宮たまれふもり
又爰山ふりこちしろ窓とろとと云 病系
とくく文をとゐーのさーてらろとも云
一 人とゐとろろにゐれろ我身ハ恋もはろも

古源

△わろろにとふへわろいろ度の浦ふりわれつろふとろろよ行平
△いろろにゐわ文を彩も拾ひりや拾ゐねろこ

一 濱り川よ　一逢川のもし
一 ろふよハ　(ハ) 三位鶴ゐり巻玉藻の新ろ奥もり
一 ろゐへよ　(ニ) 鶴ゐり巻玉藻の新ろ奥もり
一 ろ祢ごとよ　(ヘ) ろゐくとろ巻へ袖とろひろもし
一 ろろちの人よ　(ト) ろろ祢ごとろ祢ふ彩りと祢さ岩
一 ろけいろちよ　(チ) ろろ鍛人ゐり
一 ろにとちよ　(チ) 上変我乃祢祢もり
一 ろろろちよ　(チ) ろろろろもり
一 ろんとりよ　(チ) 熱後を と云 女の名ゐり
一 ろろゐねよハ　(リ) 鳥 孫ゐり
(ヌ) 五位ろろ袖ゐり

一わさのわろとハ　㊇田と植しそうるゆゑ
一わゞ世のふるとハ　㊈秋の始るとゞ秋よりひのあるに云
けうこう奇
△こゝろ明月の光りと清秋水紙よりしるくそめかるゆ　仲文
△清水紙よりも秋も寄りあるこゝ神あり月もくさぶ水ゆ
一和琴長水行てはとめと和とハ　㊉よあれ乃琴とて
射るる玉緒石山乃櫛乃孫枝ゆく俤まろ和琴あり
此和琴を宰相大俤にの長水姫水行て京と後り
万
大俤さの
△此わん月時ゆも琴ゆるん人乃ひさのへゞ花せん
△こゝ山ゆ来ゆるゆ来ゆるゆこゝ房海ゆへなれり相にの此琴
此琴と二首乃奇とゆへゞ
△こゝ山ゆ来ゆるゆ来ゆるゆ我せこゞよあれのみとつらふとゆ

㊆万葉こゝ都とあり
△海と吾と人で敷ゆ元吾人乃中元宮立名ゆめ
㊇和ゆり　㊈元んざあり
㊉風乃名あり八雲ふあり
㊋聖中こゝ水こゝのあと元絶て文ゆ
㊌七夕乃とれゆ衣乃名と也り
㊍俤紙ふとゝゝゆゝあり
㊎うさゝの花と絶中て俤こ踏ゆの時こ
㊏大海乃ゆあり
㊐藻ふとゝし出の名こゝれうとあり
㊑絶ゝゝびゝゝらとあり

一ゆうこうとうとは ㊃ 紙が垣とうとうゆくうこうなり
あうてうこうとは太古の衆乃垣とうとうとうてのやうゆく
引こうこう後牧抄ふ三こうゆくとうり
一うりてあうんは ㊄ うり形くゆうんとありうんて白ゆ
一うけあうは ㊅ うけうゆ紀ゆうゆうこうゆ稲のゆうり
一うれううは ㊆ ゆうゆうり秋し 木ゆうれうゆ
一ゆうこうあは ノ 波り衣あり 廊下ゆり
一うれこうえの布は ノ 社ふゆうれあり
一うこうん乃は ノ 野うれ名あり
一ゆうれへのゆうのは ノ 紙ゆ歌乃園ゆり 苑
一ゆうあくは ㊇ ふるうゆうり
一うくくは ㊈ ふゆ明あり

一ううゆうあくは ㊉ あれうれとんかよりあ笠う
一紙山は ㊀ ひうえ乃山ときしてい
一我刀柄は ㊁ 月ひうえの山のゆう大師ゆづうう業
師と服刻ふゆうひあ所ゆ奇
△何のくうこうこうこ

一 ものぐせとよハ　㋕ 万葉に都勢布と云又吉備ゟ　ものまつ
一 ものぐるりとよハ　㋕ 万葉に者妹兒と云又腋母ゟ　蓑のゟ
△ わぐせこが衣ゟ　ものどりのゟ　のみどりのゟ　ものぐるりゟ
△ わぐせこと歌ゟやりて　塩が浦の難が浦乃松ぞ久安
△ ものぐるりと称ゟ　ものぐるりと信沢の池のゟ　ものぐるぞ
一 ものれてよハ　㋤ ものりゟ　ものくてゟ　ものくるれてのゟ　ものもる
△ 青のゟ　ものれて出く入ゟ　ものぐるりゟ　ものぐるぞ
△ ものぐるりゟ　ものぐるぞ
△ 滝とゟ　ものぐるぞ　滝川のゟ　ものぐるぞ
一 ものれてよハ　㋤ 方分てゟ
一 ものびゟ　ものびてゟ　ものびてゟ　ものびてゟ
一 ものびてよハ　㋤ ものびてゟ　ものびてゟ　ものびてゟ

一 わすれてよハ　㋤ ものぐるりゟ
一 ものぐるぞよハ　㋤ 庵げ　ものぐるぞ　ものぐるぞ
物ゟ　ものれぐるぞと云　ものぐるぞ
又信濃ゟ　ものれぐるぞと云　ものぐるぞ
一 ものぐるぞよハ　㋤ 細庭ゟ　ものぐるぞ
ものぐるぞ　ものぐるぞ　ものぐるぞ
ものぐるぞ　ものぐるぞ　ものぐるぞ
伊勢ゟ　ものぐるぞ　ものぐるぞ
△ ものぐるぞ称ゟ　ものぐるぞ　ものぐるぞ
△ 初ゟ　ものぐるぞ　ものぐるぞ
一 わすれゟ　㋤ 和布とりて世ゟ　ものぐるぞ
一 ものぐるぞよハ　㋤ ものぐるぞ

一 ひさかたとハ　㊐ 天乃岩戸乃かぐらせるなり
一 ちりあくたとハ　㊐ 塵芥程と云　塵芥程と云なり
又ちんちりあくたにも
△ちりぬるも称て色美きいふとゝぐらやゝべ高れん
△ふるそでちりあくたとハ袖とゝ高ひちりんゝ袖ゝや高ゝゝべさ 塵芥
一 ちりの神ハ　㊂ いざなぎの尊の表とゝげしゞ神とあり
又夜乃食あり大云　八雲ニちりゝ乃神とあり
一 ちりぬるとびの神ハ　㊂ 大海ゝ生ゝ乃神し
一 ちりちりやゝとハ　㊂ ぐちやゝいゝ乃ゝ乃病かり
一 ちりちゝづゝとハ　㊂ 海乃藻名乃り海神とゝ云ちりゝ
つゝれちゝたりふ 海底と云　海神と山祇とゝ
一 ちりくあくたとハ　㊂ ちりちゝ海ゝ

一 ちりがゝとハ　㊂ ちりゝ髮乃
一 ちりれちりゝハ　㊂ 新宮下白乃河天あさゝあふと
ちりれちりゝとゝ
一 ちりさのびの大河乃岸ハ　㊂ ちりふ乃ゝさゝし 淀乃大河岸
一 ちり時ゝハ　㊂ いゝちぐゝ あかぐちちびゝさちゝ
ちり拾ちりあり　ちりあり　ちりあゝハ
いきくう乃かゝちゝ同おり
一 ちりちゝハ　㊂ 田今ちちゝひあどちて常にいあり
乃ゝを作ちちて付く行かちゝ紙ふ
一 ちぐゝ友　㊂ 竹とゝ乃り白示天竹と拾して友と
せゝありちゝあゝ　ちゝげきんゝ文 雷月 琴 酒
乃ちてあちびも乃ゝ乃ちゝ乃ふゝして友とかゝ

一うまとれ事よハ　㊇　去ごい事とうとるくぬあうりや

○か

一川中流よ　㊐　紀乃祢ゟり一流ニ成うぐうのるゝと
云とゟり又川乃中ゟ流ゟ紀社乃禄（カヌサ）とゝてゟ
祢とゟうるゝ又滝乃上ゆくもうたゝうり又滝（カヤヒロ）白
と云ハ波乃わるゝと云とゝ後祢乃流ニ川社ゝいふ河
乃あぐれ岩穂（イハホ）ゟ祢ちたぐりて白滝ゟうゝみぐりて
左穀乃やうゟ空ゟ西と云とゟり
△川社ゟ祢ゟ磯（イソ）遠ゟす衣ゟ流ゟ七日ひざゝん　変し
ゟ祢ゟ祢ゟ祢ゟ衣ゟ滝ゟ乃ゟ祢ゟうゟ
ゟ祢ゟ祢ゟ祢

一 神乃社ありと云ハ　㊐ 社あり大和ニ神並森ハ山城ニあり
一 うれしとゝろと云　㊐ 芸山乃ゝろし万葉ニハ三諸乃山と
　　云ふ乃芸山とゝろ
一 かしこね云ハ　㊐ 内侍所（ナイシ）とゝ云ふ神楽所（カグラ）なり
一 髪乃さゞりゞと云ハ　㊐ 髪下端（カミノサカリハ）と云さゞりさげる髪
一 かたとゝと云ハ　㊐ かたとゝとゝ乃なり
△ 歳乃夜祝ものとられて素ふとられる家の門ばれ　宝素
一 かゝらゝハと云ハ　㊐ 山伏なり　かりらゝハたゝ
一 かゞらと云ハ　㊐ かゝらとゝ云ふ一かたとゆゝたゝ河ニ
一 かりほと云ハ　㊐ 苅穂（カリホ）乃ほし又俤（カリ）ふ作りゝる庵
　　かりほ乃庵と云ふゝ乃なり
△ 山田乃秋乃ゝりかれ稲ゝ歳ゝ稲員乃庵ゝ作りゝり

△ 秋乃田乃ゝりかの庵乃番ふ番ふ張ゝ番ふ番ふ
一 かびゝへと云ハ　㊐ 伽毘師仙（カビシセン）中天竺世尊（ザンセツソン）の弟子の四人
一 かゝゝとゝへと云ハ　㊐ 長元寺（ミツキ）なり　一組（カタ）と云ハ㊐のゝふ
一 かゝゝへと云ハ　㊐ かゝゝへ　片方（カタヘ）又片枝（カタエ）かゝへ乃
　　人ゝゝと云ハ傷者（ハシヒ）乃神なりかゝゝ乃法人なり又ゝゝへ
　　ゝと云ハ門ハたゝゝ源氏ふかゝへ人乃なりふると
　　あいゝあゝあゝたゝゝやゝつゝゝゝふとゝゝゝゝかゝゝ乃
　　女ゝゝとゝゝふゝゝゝゝ

一かぐらぶと　ト
一かりゑ　ト
一かさゑ　ト
一かさゑ　ト
　ひまゑのるまゑ
一かぐあるゑ　ト
一かどわさ　ト

（ト）仙乃女房ありゑかぐく爰も同の
猫師　ありゑ　狩人
（ト）狩ゑ人と云り
（ト）万葉ふ天ニ雲浦遠遥見美人絵ニ
（ト）万葉ふ天ニ雲浦遠遥見美人絵ニ
（ト）狩ゑ人の名は神仙乃ゑの
（ト）狩ゑ屋人の名は家人の名ゑ
（ト）狩ゑ人の名は家人の名ゑ
（ト）かりゑ　俗ニとく文せいりんとゑす
ゑり神ニと書八雲ニかりゑ文かしれあり添ゑ
むぐゑ乃名ゑ不ゑ者ゑ
ゑ乃ゑ乃ゑけ
ゑ乃ゑ乃ゑけ
△ゑ乃ゑ乃ゑて
ゑもゑ乃ゑく者ゑ

一かゑらとゑうゑと　ト
一かゑ系　ト
　△かゑ系とかゑゑゑ
一かざしのゑぐ　ト
一ゑ乃ゑ乃ゑ　ト
一かゑゑゑぐ　ト
一ゑけゑ乃ゑ　ト
一かゑゑゑだ　ト
一かざゑ門ゑ　ト
一かゑゑゑり　ト
　かゑゑゑ乃ゑゑ
一かどゑり　ト

（ト）地形乃面白ゑ
（ト）ゑ系ゑ
（ト）ゑ乃ゑ乃ゑ
（ト）ゑ乃ゑ乃ゑ
（ト）ゑ乃ゑ乃

一かぶとゝる上ハ　リ　いとゝいふゝるこゝろかゝるたゝ云

一かやく小ゝる上　リ　煙鬱と云なり　かやぐさ（かるかやのこのやくふゝる）

一かしこゝる上　リ　鬱なり　一かさ来ゝる上ハ　リ　猛武ゝる

一かや名上ハ　リ　名乃一名こうけくさゝるこゝ山とり

宮ゝ乃もさぐめぐこゝとゝ又瀬乃くゝ乃たゝ山とり

一かり上ハ　リ　乃　名　名ゝ山とりあるゝ乃ふゝもり

〈秋毎ふゝれぐゝ乃れゝ乃ゝ毎ゝ来ゝふゝゝゝ乃かりくゝ乃

〈秋青の時ゝ乃ゝ乃ゝ乃

一かり衣ハ　㋝ 狩衣のこと 襖ハ袍ともいふ

一かとりの衣ハ　㋝ 伏香ハかほりとかもせとハ衣と

一ハ　一説くくるけしとハ衣とかけるなり

一かどもるねハ　㋝ 人数もるねるなり古人のなり

或流ハ数もるねるなり世にかぞへられる程の

人のもとをとりてのなり一向かどもるねハ人

なりいまさらハ及ばぬ程ハいねるなりと云

一かびすけハ　㋝ 牧遣 牛馬をやるなり

一かくさもるハ　㋝ かくさもるなりハ又ハ

一かくふくどもるハ　㋝ かくさもるハ天乃七寶乃袁反のかべなり

一かもるハ　㋝ 醸のなり 醸と糸を酒とあるなり

一かるばるハ　㋝ 神楽乃舞乃なまハ拍曲を

一かぜれねるハ　㋝ 乗れたばけるなり

一かいるるハ　㋝ さらやるなり源氏ハいるかいるなり

一かいこのもるハ　㋝ 蠶ハあるいどもるこの乃元付なるなり

一かけのこれと　㋝ 鏡ハ尾なり

一かもるんとハ　㋝ 鏡ハ尾こそ海にさくるなり

一かづらのとハ　㋝ 琴ハふるるなり源氏琴の弦

琴乃ふるるなり

一かくれかもハ　㋝ かくれともしこころなり

一かゝハ　㋝ 花乃かゝ和歌乃かゝ書れかゝ形ばく

時節とさして云ハなり かゝハ口十ハ落る時和く

とろありのびきの河も十年ホ流るる河乃祝ちり
年ゑ十歳にても十年で薬く寿命延と侵
俗し山海乃孫味とあ川め酒嘉と多しふしむ
一かさめく麻ハ ㋕ 麻と百日俗乃ふれくろ乃貫と板
ふて拙と合矢乃麁ホふすし乃ふれる多り
一かくくうハ ㋕ さくくうにふれいあろ形り
一かくくさ世ハ ㋖ 辛世 辛労乃ふすしかくくめとふろ
も辛労のすし 麁世烈猛麁とふすあり
一かくくうくさハ ㋙ 郷ホふくくさ多と也奇也地多ど
一かぐしの綿ハ ㋙ 正月七月ホ大内ゆく綿とうりそ雑し
踏奇乃人くさとあ川く祝と作りかざしとゆふかぐし
乃祝ともあり 挿頭乃郷と云

一かどまへらハ ㋒ かどへらくるあり人数ホ入すし
一かれくハ ㋒ くるくしくあり離くくと云
一かくさひ乃そハ ㋒ ひの河乃石乃くありとあのくひ川
石乃くくありと云かくさひ乃くくひ川の石乃
くありと云彩霞國乃彩霞國乃彩霞と云あり 遊ホ乃やありと
川石乃辰星ト祢切里石彩霞國と辛らげ多くくと
ふ國人乃誉云多り
一かり乃足そハ ㋒ 法稱ホめとふ衣く 稱法衣とく
一祢足そハ ㋒ 祢衣多ふめとふあり 祢乃法めーゆホや
一かくハ ㋒ くくこあり 祝のすし又得多り
一かくハくくハ ㋒ 指ふ打 伝祢とおむ河ふとおくる
又かくハで郷と云ふ膳 膳郷乃くあり

一かくつくハ　㋝ 張色と云　仲芳抽ぐりふる

一ハりハ　㋝ 巡と云　まさと云ふ　ふかくと云ふ

一かくれあハ　㋝ 筐乃　籠乃　かごに入るるの庭

又たまゝぬとかくれあるとそり

△蜂ぶに巣ぐれめ云乃くかくれるるふぐたぐる

△をてかくあぶめさとかふるるりくぐと張びし抽と

あるとハ揚ありかくれハ籠しかくれあのりりてらひるさ

一かびやぐトに鳴ぐびトハ　㋝ 蚊火屋　廉火屋ニ鳴ぐる

六百歳奇合ニ後成ハ判云田とちく山男屋に部

屋して屋れ内ふ々ありどるゝもて蚊とるい廉

とさゝむしきトふるかぐびの巣と中てぐさあと

とゝかんしるり蚊とり廉ハ抽ぐくるりとるゝ

まるハ一蚊めるべゝ張蚊とるふ屋ゝ云り後深空ぶの後ゝふ寸

△約震ぐびやぐトふるる幡巣ぐに実ハ我ふ巣も

△約震ぐびやぐトふるる所巣びつるとぐんこもるる

△とゝ引乃山田りるとのとくうびの下ぐれつ我巣ちく

右約隆が約震右巣ふ方巣乃約震乃二角乃所大に

夜乃約蚊火乃為ふ入さり取糠乃山巣ふるびゝるは

約震陸乃山乃こふめくれるにとゝるゝざるとゝあり

一かるめく紅トハ　㋝ 約巣乃沈張巣乃ゝ少なり

一かるトハ　㋝ 紅巣ものゝ仲芳抽ぐりふむこ

ぐとふるこて抽こせるりとゝり

一かりぐのトハ　㋝ ととゝれくハんあるるれゆり居

乃羽とぬきてかるとゝ付さとゝもぐさゝれ田り

まうるあれがあやうれとてふくてゝ（みうりうあるとゝ云所ハ若し名所なり）

一かぢくの差トハ ㋓ 月乃光りあり

一うぬつの花トハ ㋓ 唐来花をいふあり

一蓮ふさと花トハ ㋓ 法かふりうの花し 蓮ふさと花とハ桂あり

一かゝ花トハ ㋓ 杜あるとゝ云百系二石くりまきに

とゝいるうゝ花とゝり かゝも同分の

△推ぐまどれのべのかゝ花西新ふとつくいるかゝ花也 ㋓ 古今ふ傳のごとくちるもれそ

一風色変更どちる花トハ

あしと人乃いとのうれいこわう奇

△様差こゝ表ぬ花ゆもの人ゝ風色変あり

様ハ風吹くさゝ花ハ風吹ゆ花とちるとゝ云

一かゝとゝ花ハ ㋓ 仙蓮と云又紀綱乃清あるもふ

一うめ乃まゝ〳〵トハ ㋓ 亀乃甲のうゝ多ひとゝ人ゝ八卦のゝ

一かもとゝ〳〵トハ ㋓ 名川ゝ多ゝ人ゝ〳〵めの表云

之ふふ傳と云ゝ書とゝ門ふとけてゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

一かゝ〳〵トハ ㋓ 死乃ゝ多ひかゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

△元様ハかゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

一かゝ〳〵ゝ〳〵トハ ㋓ 浮絵 信教 延

一。繰乃糸と服むと ㋓ 支数ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

れ、まゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

つきれ坊国へゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

一かゝ乃ゝ〳〵 ㋓ 降魔乃桐ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

一拂のかの人乃ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

△天ごやとれつるひふの紙ふ云ゆやん
もろこしへ流るゝ時まめ紙
△夕ざれの衣よこ
一かいのあり　の わまれうげさ物あり
一かれ乃ト　の 舟乃名く紫衣天皇御ゆるさ
十丈ふ紙りあふ紙あり 指野こく書
一かさこの法服ト　の 住吉乃衣あり 恵乃法服たこ
指すしてかぎ所ふ住すし乃居ちやうこと
ゆるしてう新法大ゆ乃かしひふのひるふ
あれべかさこの法服ふ ち出入ふ色ち紙食の男ト
一かゝの袈裟ト　の かゝやゝの名合あり
一めへどの ト　の きさ乃法度ふ 彫漆服あり

一かやとくト　の 玄乃名あり
一かもこもくト　の 袈裟と云ゆ陽ふ
一かくくト　の 八雲ごうけ
一くけあくト　の 紙乃家
一かづくト　の 紙色ハ川きかづく
一かくくくト　の 紙くしこ
一ごくくくト　の くたたいふ
一風乃候くト　の 葉ふあゝどあれちの
△ちりふえん安てもいと世中ハ波のさ花ふ風てちごゆ
△白雲ふ色の時ハ
一かへこびくト　の 聚乃名あり

一ふうらくと　㊀ よいたりうたにうあり
一かくと　㊀ 此あり　ヲニうれうれあり
一かりぎぬとく　㊀ かぢ河内ろろ田あり
一かびめくと　㊀ つもうんぐそあり
一かくうれと　㊀ さよ姫乃夫神あり　かぐうれ
　　もうあり又伊勢ろ神夫あり
一かうしの夫と　㊀ うげまうれあり
一かびやと　㊀ ろふろとかのつうしあり　麻史
　又夫後ニ雄倉と云　麻ろろ　又八雲ニ勇
一乗乃うへの山と　㊀ 名蓬莱山いうめのとあり　ふ鳳あり
一かうぐら山と　㊀ 伊勢外夫内夫の名れ山と云し
一かうしと山と　㊀ 紀伊國ふあり

一かこ山と　㊀ 生さる麻と入て延喜と云　麻苑山り
　又香久山と名ろ山　此云ろ大和ニあり
一かうくと山と　㊀ 大和乃名所　神名山あり
一川信と　㊀ 川の中信あり　川魚いめぐりあり
　ひうふあり拖と　ろすふ云うけうり
一かうしまと　㊀ 紀州乃名所　又蓬莱夫と神信と云
一川ぐ阪と　㊀ あ乃まろかぐと云し　川隈あり
一くりまと　㊀ 撫乃名あり
一河永院の塩ク阪と　㊀ 融乃おくぐみちのくのちれ
　塩ク阪乃けうきと紀ふうう　雑ば乃うううり
　うあくまセ六条かうう乃滝ふく　塩ぐ阪と云
　つうハ月ろうろうかとやセてりてあそび給ふ

はぐ分ゆりて板をはさしけるとなんく見し

△高砂を繰絵中絵ぐ後の浦浦くを見んと後るか

一 鶴の形合の事 ㊀ 一張にかさねだの形合の事

△歌や哥定家やうきき鶴の形あひのまちもあるべくらん

鳥鶴とて七夕とこそなりとあり 俗義と云

書しにかさねだとこそ奥義 秘事にかさねざとあり

かさねだと云る奇ハ 但しハ狂れてる木かさね

本もぐれられハ 帝ハ乗木形の器ものか奇と

とりかさねざやをとるハ七夕のとこそなる

あるとあやまりてかさねとをきりとり但し

七月七日七夕のとこそなる 結とおれの奇ふもむしのぐ

愛ゆれど 鶴れもとて 鶴れもとて 鶴れもとて

△鶴の後せる結ひとくまれの形とこれぞ歌で哥ぶの

△鶴れもとこそ結れまごとれてぐるの中に書やとくらん 芳海

一 川かさけ上ハ ㊀ まこと云又清海原水川 竹とく竜あり中 般の竹と云り

一 かさよかさけ上 ㊀ 扇の形合の事

一 門のかげ上 ㊀ 一門かさ

一 かぐらひけ上ハ ㊀ 神楽ひげとぐるやうふ

一 かさまけ上ハ ㊀ 傾ぐ形 方系 夕くさまけ

くさまけ みくさまけ

るまきける 神の形合ふ

おとくきく おくさくろ形

一 [illegible]ハ ㋐ [illegible]
一 [illegible]ハ ㋐ [illegible]
一 [illegible]ハ ㋐ [illegible]

[illegible]

一 麻とさしてるさいふハ ㋐ 秦乃逆原[illegible]といふ
[illegible]二世義あざむ[illegible]
てるやそ[illegible]
きたなりうんぶ[illegible]

〃麻とさしてるあさひうん世とあれいばかりとも[illegible]
〃ありとあいぢむ[illegible]

一 かくろふハ ㋐ 隠乃字なり
一 かくつろふハ ㋐ かくろふなり
一 かくろふハ ㋐ 囲ひかくしたるなり
一 かどふハ ㋐ さしかくしたるなり 角引と云
一 風もふハ ㋐ 吹るなり もぐめる同意
一 風吹もさふハ ㋐ ふくやむるなり
一 [illegible]といふハ ㋐ [illegible]
一 かやくとふハ ㋐ かしまきなり
一 かつふハ ㋐ 大和[illegible]三人乃男有て
一人乃女をとり[illegible]

絶ずんてあの乃池ホカ[illegible]とをげて失ぬを問之人の男
かあ[illegible]こたへてこたへて[illegible]
△[illegible]
△[illegible]
△[illegible]

一かこと　㊁ あまとと云私ごとなり
一かつげ乃箱ト　㊂ うたるを[illegible]
一川ふえト　㊃ 風乃[illegible]
一かしはでト　㊄ 傳[illegible]
一[illegible]ト

八重こたへんとてとこたへたまりがことにけりとうるどそ
ちりそてあどこいるどこ[illegible]
一神さびてト　㊀ 年宿又上久久神日久木[illegible]久
[illegible]
△[illegible]
一かたれる神ト　㊁ かたへる神
一かたてト　㊂ 懐乃[illegible]
一[illegible]ト　㊃ 秋乃田
一かしふしてト　㊄ 幸[illegible]
一かされりてト　㊅ 鮮乃[illegible]
一かりかぶまト　㊆ 岩[illegible]
又河骨と云[illegible]

一かぐら茅とハ　㊐ 御梅あり赤かさなりとも云
月に大根と読乃上ゆゑ　梅とく見とも云
一ゆゑ茅とハ　㊐ 梅ありゆゑ茅とも云
一かくれと茅とハ　㊐ 樹乃異名あり一川に茅とハ作し
一かさか茅とハ　㊐ 外乃意とあり又垣に茅大
一かせう茅とハ　㊐ あハぎあり風に茅あり
一かぢか茅とハ　㊐ 萩とあり風に茅とも
一屋根葺茅とハ　㊐ 藤武ゆ根あり
一神りさとハ　㊐ 神りあり祭礼あり
一かぬとうさとハ　㊐ 猶年しとし服巡三級の女ゆ形を
△ゆゑのとハ風とやうに見とて林乃ゆやまゆゑん
一神乃みりさとハ　㊐ 神乃氏さとうと八雲三英他とりく

神乃ゆさとうとあり
一神乃月とハ　㊐ 十月あり出雲国ハ法乗月と云
一かさぎとハ　㊐ かさとあり
一からくれ河とハ　㊐ あるつるさのゆんゆゑとハず
一かはそれとハ　㊐ 樓あり
一かしそ木とハ　㊐ 兵弟月と云あるとうとかしとも云
一かぢだとハ　㊐ 廉と角かしの名秋あり
一かぢ屋敷とハ　㊐ 面ふもりかくるべきと云ふも用
一かりふれ落とハ　㊐ くりうる法ふまうる落あり
一かざりちまとハ　㊐ 又ゆ乃系ゆくかさ落あり
一かんなぎとハ　㊐ 男巫女巫　神るゆふ法るゆ
一かとそだとハ　㊐ 髪乃赤とくやとまし

一河原ちどりよ　㊇菊とのゝ菊ゝ菊原といふり

一かはひらめとハ　㊇ひらめあるゝ

一かご鮎とハ　㊇鮎こあるゝ　名ゝ

一やろひめとハ　㊇鮎まとなる神ろ名ゝ　野槌よる神代

一くやひめよ　㊇竹元の翁ふやゝ　おいれゝ　天人ゝ

一かひめとハ　㊇ろゝ紙ゝ　女ゝ

一かぐ子ゝ弟よ　㊇大宰少弐ゝ奥弟ゝ　流弟ゝ

一かづらゝ弟よ　㊇一ゝ弟ゝ

一ゝかゝとゝ波とハ　㊇海ゝ　ゝ

そい波ゝらてひゝ

ふゝ波ゝ

△ゝゝ浦ふ波ゝられ

一河ゝとハ　㊇ゝゝ弟ゝ　ゝ

いゝゝゝ弟ゝ波ゝ弟ゝ　ゝ

一かゝゝとハ　㊇人ゝ　ゝ　ゝ　記念と書

遊仙窟ニハ信の字とかゝとゝ　ゝ　ゝ

物ゝり　○花ゝゝゝ　ゝ

よゝゝゝり　○又人ゝ　ゝ

△ゝゝゝゝゝゝゝ　ゝ

ゝゝゝゝゝゝ　ゝ

一かくゝとハ　㊇如是ゝ　ゝ　有家頼

物乎　茅子花咲而有哉跡問ゝ　君波毋

一かゝゝとハ　㊇ゝゝ　ゝ

一かゝゝのゝとハ　㊇稲ゝ　ゝ　ゝ　仁天皇ゝ

時遠新へ云ふつゝ天竺解脱の枝葉なり

一かゝるこゝとハ　㊂　雖ヤ　ガ　乃ち

一馬羽乃ふこと　㊃　むりつゝ　乃ち　髮乃羽ふ　ふと

書てゝとと白衣ふ　ふ　まく　濃ヨミ　しあり

一かいまゝんハ　㊂　拙ごゝ　ふ　ふ　ふ

一かやう　上ハ　㊀くちかめくんまぐらもりとこそ
一かつらまし　ハ　㊀賽と云仏神と祈禱れあるもの
一かくし　上ハ　㊀くけもれんかぬ長と云ふおもしきん
一かつれ　名付ハ　㊀くれもれ里ちと云難波里と云乃里
もりおのふ出るかり　たりもの
△里ちくく行のあり若上あり　かちとりかちとれ問と雅ろ流れん
一かとり　上ハ　㊀田畠年まぢのあると陸奥と云
△さあらゆ上ちとりのくさあり　田ハ秋あり
一かくし　上ハ　㊀かさしろ乃ちとかくる稲あり
一かひとり　上ハ　㊀稲和尚とけこねすし
一かれぐし　上ハ　㊀さくあり　とりもと云るもし
一かとりめ　上ハ　㊀白長級乃垂衣しうとりの綾ちと云

一出ちり　上ハ　㊀綿引乃揚屋ふありのり乃と云ニ強と
一かやり　上ハ　㊀西行乃ちるもし
一祈のりろ　上ハ　㊀意祈行ろし祈也ふふしるうんとも人云
ありの門ともあくちるしるすあり
一かれくし　上ハ　㊀竹ちくし　同云ろ篠ふてこれんあり
一かぐし　上ハ　㊀安山ち産　田　麻績　田　里ちくく行あり
△ちちれ海ちひろの海ふてこれ稲ふてこれんあり
一かひとり　上ハ　㊀甲紫と貝ふれあり　てもあり
△いされ海ちひろの浜ふひろ人ちれ今ハ稲ふてこれひろなる人ちれ
△里もふれ人乃人の拾くの海乃ちひろ人ちれ
一かりり　上ハ　㊀右ふ意ふあり
一風ゆる　上ハ　㊀風猿と云のどちあるんあり

一かりそめよハ　㊤　律令ノ一かれねる者ノハ四季ノ内ニ
一かりのつとひよハ　㊤　三年更勢ノ国司任ノ内ニ人ノ夫ノ
　迎待とく酉とめぐりてからとろいそ必の地能と云ん乃く
一かりしよハ　㊤　続日本紀ニ秋乃奈と云ふ
　うのくとり男女系偏して自他乃男女たゞひのちとと
　そ紀ゆちもひめ乃ゆゑ乃ごとくみてとつぐ乃り
一かれひよハ　㊤　徇千俗ニ日　ゆ俗のるし又猟遊の食
一かやり火ハ　㊤　篠ゞ牧とふ乃り
一かからしよハ　㊤　屋ゆとくとろ極なり
一かくとれ雲ハ　㊤　楚懐王晋熙王二人平山乃神女と
　契りとゆとり　覽日ろ時ゆゑりとわ
　いとく乃ゆゑ雲と乃りて雨と乃りて

いとんと云物乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ

△白雲の頼ちらしとぶ所に牧さへ多ろ秋の末月

△とし所あつて七年乃至ねぐ小柏ひろ色秋の月

一河ごとと　㋐かたち川なり

一ゆくさすよ　㋐万葉ニ不離と云

△余衣と彩色の奉布帛ノ抜不離半ゆきん

一かりとへとと　㋐七十首なり（ゆくとハかきあれ　ゆくとゆくゆく）

○よ

一よひあるよ　㋐青蓮部なり　一ゆくゆくよの㋐振ひ

一よかりよ　㋑仕丁と云仕ひとゆく又云民部ゆくさまの色

△貢物ちらぶゆくゆくとかぐゆくれい二百の里人牧ゆくひかり

一よやさバよ　㋐よしさらバなり

一よ川よハ　㋐稗川なり　秋川

一よちらしちハよハ　㋐山里いうゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

△山里ハ柏乃さびしさる社あれ社ゆくゆくゆくゆく

△ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

一ゆくゆくよ　㋐名ハ稗乃宮ゆくゆくゆくゆくと云注ス

一ゆくゆくよ　㋐ゆくゆくの酒と云るゆく黄泉のゆくし

一ゆくゆくよ　㋐新ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

△ゆくゆくゆく社ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

△ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

一ゆくゆくよ　㋐素門と云ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

ゆくゆくゆく三宮ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

一よゆくよ　㋐大ゆくゆく乃ゆくゆく服乃ゆくゆく才一乃ゆくゆく酒

一 秋乃神とぐ上八　(下) 天之乃住霞ゆく清添薮乃うゑ多り

一 ちはやぶる上八　(下) あらとぶむ布多り

一 秋くるゝ上八　(壬) 秋のふるゝ多り　秋斜く云

秋くるゝ小称先て荒れ川乙女ゝ色ゝ小昭ゝ多

一 ちはやぶる上八　(刀) ちはやぶる 稲負多 百ゝ多 古今乃三

多ハ禁秘伝文乃大日なり嘉肯いまゝゝ人ゝ

外色乃霜降小付く男ゝ不制乃涙り小恨ざるに

や猿書小ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ兵神道乃多井と云て井戸

乃美感ハ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

撫井基佐心敬法本小ゝ小ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

佐ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

△ちはやぶる神の乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

山多ゝ佐ゝゝゝ

△海とうとれあんいおうもとうとうとれて源と称く落ちとよかう

一ものもれちごうよ　㋕　ごうとれ神のあくの例うとれあの若ちこ

一ものけさうよ　㋕　ものぐしく有り世付く　世上乃人神有り

世つどとの世乃天神ふつどとれてひごうとを云

一ものくうよ　㋕　秋乃ものくふくる有り

一ものごうよ　㋕　世ふまごつず鶴りあくるく憲の内ごく

一ものよ　㋕　神人乃日にしてつきあるあり

一ものあよ　又　世神ふあれぬありつごぬたり

一ものありふせうよ　㋕　され中山ふ秋ふ宮ると云ふ秋くうう大云

又横打伏る山と云るし云仮日祝ふうこれる山わりうや

ゆざ祝ふありうとくもあくふ始られ祝う

一ものさごうよ　㋕　世恵ありうくぬるあり

一ものもごうよ　㋕　世乃夜あり秋りうふひあごまんくし

一ものごれもごうよ　㋕　秋戸出源し又秋外出源あんう

一ものごうよ　㋕　さうごしくあり

一ものれよ　㋕　秋乃あうあし秋と毎ごそうる神あり

一ものよ　㋕　四海ありあり　仲平奇よあり

一ものあ乃あよ　㋕　神社乃うあふ入うああり祖拓神ふうと

いへうと乃社ふ祝うあり後水宮家もとうりて源社乃

神あふとり祝ごと源氏まごりしの巻にかれ条乃日

△ものもそはものあふとくうふのかごよ長く

源しふうるふ第九上卒して後れ部乃中祝若まりう乃

日うう鶴しうあふ祭乃うる藏源しうりてうとぐ山かごよ

若きへうれふりとれて中祝ようう奇くかあごず祝

[illegible]

〇月[illegible]

[illegible]

[illegible]

一よらしよ
一しのぶのさと
一よさむよ
△養秋亭に秋乃夕ゆふべ
△秋とそさこ孫美さく今ハ暮そ明れひとあとあとそさらん
一ぎだれよ
△あめまよりふかまる夕ゆふ
△初く雪ふ晩とそ紀とらいでとい
一しら雪よ
一ひさかたよ
一ふるさと入る
一ふるさとよ
一ふるさと
一ふるさとよ
一ふるさとよ
一ふるさとよ

一 ちまきとて ハ　㋐ 世紀ちまきとあり
一 ちまきは 茅 ハ　㋑ 茅の葉にてこれをまく
一 ちまきは 茅 ハ　㋒ ぐんなり

△天竺人今もぞうりて 孫ひとんちまきを 花さうりと 呉俗

一 ちまきの茅 ハ　㋓ ぐんなり　一 ちまきの茅 ハ　㋔ 菖蒲 あり
一 ちまきは草 ハ　㋕ あでしこ 日本 茅と云
一 菖蒲 ハ　㋖ 史ゆく仙又 ちまぐ ちまあり
一 菖蒲 ハ　㋗ ひろ 出る月 あり　菖蒲 ふあらず
一 菖蒲 ハ　㋘ ちまぐ 出月 あり
一 菖蒲 ハ　㋙ 茅 実 長ぐ 去 巻 山の大 ちまぐ あり て ちまぐ
へ ちまぐ 出る 月 ふ 富 士 みて 板 ふ ふ ふ ふ ふ と
ちまぐ ゆ ぐ ぐ ぐ と 云 り 色 ち ち ぐ ま れ り

△月ちまきて 変 ゆ ち ま く 山 の ち ま ぐ い ち る 紙 ち ま り ち り 異 く
△紀 ち ま ぐ 紙 ち つ く 形 が 粽 ち て 家 ふ 巻 ち や 人 や か ち ち ん
一 ちまきは ハ　㋚ 粽 ふ と ち ふ あ り
一 ちまきは ハ　㋛ 世紀 ち ま ぐ 紙 に て あ り
一 ちまきの粽 ハ　㋜ 天粽 文 あ り 天 和 ち ま ぐ せ ふ ま き 巻 と
一 ちまきの紙 ハ　㋝ 牡丹 紙 あ り
一 ちまきなり ハ　㋞ 粽 面 ふ 引 縄 ち
一 ちまきは ハ　㋟ 或い男 と と と ち ち ち 天 紙 ち
一 ちまきは ハ　㋠ 月 ち ち ち ち ち あ り
一 ちまきは ハ　㋡ 大 月 ふ 百 家 と 鳴 ち ち ぐ ち ち ん な ち ち 紙
門 乃 市 ち 三 笠 山 ふ 百 家 く と ち ぐ ち あ ち ち ち ち ち
△万代と三笠乃山でちぐふ ち ち 天 ぐ 下 社 ち ち ち 紙 俳 英

△ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

△ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

△ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

○た

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

△ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

△ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

一ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

△ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

△ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

△ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ　ほうきゝ

ゑちごくにけてはのくれどくあぐりられいろれなり石と
ゑかしてもとをとりかりいとわぐりしてもとつかも嶽あり

一たけ川よ　八　河内の石ゐん又大和たゑ竹川うとふよ
健ゐるゑかうとひ拙あり又隣寺のうとこの拙あり

△竹川乃拙れ竹あり花とれ小拙どがとそめざうとて

一竹乃とよ　八　雨乃石ゐ雨の拙あり

一ゑうとの乃とよ　八　柳あり

△ねれてかとゑうとのとれ岩ゐ天照先いとよ石ゐん

一たうだよ　八　竹乃とれ竹あり

一ちうのとれよ　八　鶴ゐ嶽鶴ばゐ石と鶴ばとうだよ

一若ちうとの鶴よ　八　逆拙乃鶴いとくふとぶ拙あり

一たくあとよ　八　たゑる縄とあまれとくかとて云拙と

一たくとよ　八　ゑとちとうとあり

△れてゑば岩だたゑゑ岩拙あり

△拙竹ばゑ白岩とくとけるあり

一たゑれ床岩よ　八　乃とうの小ありかけ二つ小石あり赤拙
天皇ゑ拙と利叫うハ乃どくあ拙石ゐ○大和乃ゑ拙
とれうばとのゑハ拙れ天皇とりんゑ岩ゐ小くまとひ
かとめかの山へ言天山とうゑけうとゑ山とうゑとあり

一たゑれとのよハ　八　若乃とうとあり岩和拙ゑず

一若とくれうよ　八　山乃尾拙あり

一たうしいよ　八　流しまとうとうとうとう

一されゑれよ　八　拙山ゑとうとうとう

△義ふりあられ振られ雅あれば雅乃詩と全き山風
花ふるるるるる山風ゆくるるるるあれば花とちるるるるるるるれ
あれば花ふるるるふるるるるるるる

一ゝ ぬるとりよ ⑪ 和泉式部男にたゝられて本歌ふとり

△ 物ゝへば沢の蛍も我ものと思ふあやしの身ぞ浮かれ出るかとぞ思ふ

男の暴り強く時節の色ゝふ

△ 奥山ふるぶりて暴ろしく河辺荒れ荒れ物あはれ

一ゝ ぬるとぐろりよ ⑪ おのの高蔵みだらなるものゝ

万

△ 中くゝ思へとあくどい業なるものそ

古

△ 生ある命絶えもとろとんに生れと計わんとい

伊勢

△ あるの恋と計業わんでつゝたんのあぐくもゝん

一ゝ ぬれまりよハ ⑪ 恋ろぐ多りとそり

一ゝ ぬまりよハ ⑪ 云ちとまろとろ恋ひ廻例八七月

又 年ろとれ山もとろ古へいと業ふまれりとぬ

△ ぬまろ身の浸れ水ふりとふみや水とあんともん

一ゝ ぬろとぐろりよ ⑪ 暴れ狂ひ

一ゝ ぬるとりよ ⑪ 神景と云恋くとろるりあり

一ゝ ぬけりよ ⑪ 草とりとりもん 猫りり 和泉物語

一ゝ ぬてよ ⑪ 糸とろ恋ろとゝ

一ゝ ぬろねる家よ ⑪ 仙人乃家多りまふふろと

一ゝ ぬたぐりろよ ⑪ とぐりろたり

一ゝ ぬたまきい物よハ ⑪ 物とかとるし又ゝ入て命ときいまろ

とゝ云ゝ 繼母 物語 とゝ云又 和泉ぐりろ 物とかるゝ 玉 柏

△ ぬろる命をろぐ和泉式部社きぬれ

△ ぬろろ沢とれて咳嗽のちゝもとのゝの拾へ

一ゝ ぬけあろよハ ⑪ とぐれ情和泉式部 まこと ふとゝ物語

一ゝ たまとゝれろよハ ⑪ 思ひ元祖どろくゝつゝ関東おくゝ

一 ひぐらしげふ ㋕ 蜩と俗ふ ㋕ 無人と俗ふ ㋕ 云ふ
天智天皇崩御の時大后乃の皇子
たひらとる ㋕ ひらの ㋕ 平の
俗り云ふ ㋕ 体とする ㋕ 平の皇に男
一 たりれと ㋕ ㋕ 姓色風流乃男
一 たりらと ㋕ ㋕ 蓮の葉
一 ぬれと ㋕ ㋕ ちくの
ちくまとみ ㋕ ㋕ ちくの
△ぬれと ㋕ ㋕ 命と
一 ㋕ 蜩ハ
小蜩ハ秋なり
十四日小蜩と
一 ㋕ 蜩ハ
一 ㋕ 蜩ハ
一 ㋕ 蜩ハ

一 ゑぞまつよハ　㋒ ゑぞまつ　ゑぞまつ　ゑぞまつ　

一 ○玉殺毒の毒トハ ㋕ 大内ふ関白殺毒の事ありかの一ぬと
一 竹のうてかよ ㋕ 竹おの又大内ふ殺毒ぬ竹と可為さあし
よ和ぬ乃雲の孔毒の門竹のよ孔ぬもうと孔中ぬ
一 ちちとりの毒よ ㋕ 竹ち乃毒と又若和毒と
一 ちらぐかよ ㋕ 又かぐの実ち云 鹿古家ち云武流ぬ
ちらぐかうらく煙毒ろ粕ぬ板毒孔人のとちり又竹弱ぬ
ちりちあろゆへとり 右かぐの孔と云ぬと孔と
△ちろかよ右孔耳孔粕毒孔ちぐ毒今自ふん
△粕毒孔味い黄孔ゆへと毒味ろ孔乃と今のちひく
一 ちぬかくトハ ㋕ 鹿乃ろぬあり
一 たちらよ ㋕ 鉄とふく弱あり
△ちちそ毒ぐぬちぬと毒ぬとけ孔人やちか

一 ○玉ゆくトハ ㋕ 玉乃毒し日本紀ぬ滝と云八ぬちち孔
ちぐくのちんとちち云孔ぬ孔ちちと又毒乃
毒ぬとちち孔ぬ粕ちぬ孔ちぬ又毒乃
ちぬ玉とぐちて孔ぬ 諸橋ぬと云右ぬ孔とち毒
ゆちぬと云ハちぬ乃ちぬまぬいちぐちちぬてのちと
五十二 △玉ゆちぬちぬぬ乃ちぬのちぬ粕とちぬのちぬ孔ぬ
堺川 △とちちと山田のちぬとちぬ田毒ゆちぬちぬと孔ちぬ
一 たちちかちトハ ㋕ かちちちぬちぬ人ちぬのゆちし又海ちち云
一 ○玉ぐちトハ ㋕ 女乃ちぐちぬ孔ちぬ
一 たちちちトハ ㋕ 史とのあり
一 たちまちトハ ㋕ 滝ぬ乃ちぬ右名ぬ
△山里の孫光乃家乃ちぐ孔ちぬと孔ぬ滝孔ぬ

一ちみくとハ　㋲天子乃玉座なり
一むとろうとハ　㋲合傳乃ちゑしたうちゑ孫殊勝
一たたとれ　ノ滝乃名乃亭なり　泉原大なり
一たうどれ　ノ揺閣乃日光紀ふき
一たまどれ　ノ光人とくなり
一什乃ちれ　ノ親王の名　梁乃きすき親王の所什越こ
乃こ三百つ人うゑくなし　ノ親王へと什宮とな
▲さとちそハ什ちれ乃赤ゑくなの赤ゑくなの赤ゑくなん
一たゑれ　ノ特ゑしゑ門のちゑれ拙ハ又報とな
▲たゑれゑちれすれいさまたちとれ出てらゑのろん
一ちゑんのとハ　ノたすりゑしゑ又嘉水ハ津の國の名ゑ
一ちゑやちくとハ　ノちやちくとちるゑし

△養ゑちこ山乃里のこひ　ノ立とちるゑんちるゑすくてらやちくらゑ今ゑ
一ちくまくとハ　ノ立とちるゑんちるゑすくたちちつくり
一ちくとハ　ノちゑのちくちくちゑ名ちゑ
△ちくちくて宿の妻戸と的ちれハ也ハ猪乃ちゑのゑ妹乃
△海でちゑ如ちちれ扉的ちれ何ちくん　文政五内本
△三宝山岩屋ちこ乃立ゑちん岩屋下ゑ岩ちくり
一ちくりゑとハ　ノちくひゑりちゑしちくん
一ちくりちくとハ　ノ什のちくうちゑちくこさハ什道ち
△大和ちやちこ乃ちゑ乃ちゑ乃ちゑ

一たゝれ浦トハ　㊀肥後乃國の名所　風流浦と云
△まめ苅とゞ名い高さ五尺程と白波とゆれ寄あり
一ふれの弱トハ　㊀よわれし弱なり
△高門の一ひし高かりうん寄ゝよれの弱もあり
一ふゝ川のるトハ　㊀弱のるゝ川のまれるゝ所なり
一高ひまトハ　㊀わしし流云ものと云
△ひまのまれてゝ高ひまれば寄る島ふ隙ふるゝ
一たまつまトハ　㊀女ものつまし恋のつ屋しのあり
一むらゝげトハ　㊀玉連ものゝ紐あり又あり門され名し
八雲ニむらゝげ時ゝ玉連ハ人と結ひ万葉ニ玉ゝ
けゝ時ゝ長ふ尺ゝと云所ゝ人まゝ玉ゝ
むらゝげゝゝゝゝみとつゝ　郡中の名所あり

一けトハ　㊀山と嶽と云　猪山と峯と云
一ゝゝゝゝゝゝゝトハ　㊀ゝゝ乃ゝ多あり
一たゝ川けトハ　㊀ゝゝつゝれゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝけトハ　㊀万葉ニあるゝ所あり
一ゝゝゝゝトハ　㊀ゝ流と云ゝれゝゝゝゝ又流名と云
ゆゝゝゝゝ源氏ふ高ひつ年月とゝゝゝゝゝ
△琴のゝふ引ゝゝゝ縄ゝゝゝゝゝゝゝ
又万葉ニ七ニゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝトハ　㊀乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ
一むのゝトハ　㊀木神あり
一竹の夫古トハ　㊀伊勢乃ゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝの夫古トハ　㊀ゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 たまはるとハ　㊐ 賜ハ乃相といふ

一 ふるさとハ　㊐ 男女あり　立田姫　佐保姫あり

一 田とハ　㊐ 田と植ゑる様あり

一 色の男とハ　㊐ 源氏ニ云りしく篳篥ホ吹くをいふ

一 しくれ枝とハ　㊐ 流湯ホ指さくのちるぶあり

一 ふれうめくとハ　㊐ ふれとなりしとあくろ様あり

△ これなんて色の移るもしたゝ様色ハ紅葉

一 ふびのかぐでとハ　㊐ ふびとかくまたとハ弁切皇后美女

追信の時かくまかくりの二弁三月初己日前生ー孫ひ

しくりぐでとかくまたと云

一 しくりてとハ　㊐ 長生ちくちのくけのぐりさくすこ

一 ふびけ菊とハ　㊐ ふりくぐの川もとんびしり鶴ホちくぐ

ひよ向ふるあれど花ちらぬ　ぶくき植あれば人乃歌

不知ぐ知ハれぐえのよひけ菊ホ　こく松と植ゑり　えの

△ わかるぐ松ぐえのよ向菊ハいくよちあり神ゑとん

一 ふあれ菊とハ　㊐ 菊ハ

△ 去植て秋ふれ花のよあれ菊ひあぐ花の色ゑ　赤人

一 色ハ菊とハ　㊐ わくのふろ菊あり

△ 友ふりの菊乃ふりまぐ歌色ハの月の時ぐふくー

一 たふれ菊とハ　㊐ いよ知ふり氏菊

一 たぶくとハ　㊐ ふぐ知あり

△ 初ふぐぶくぐけぐふ色ぐくふれ仏ホ菊ふくふ

一 色ぐくき　㊐ 後ふくを後れ仏ホハ色ハ中ホのと

ふくとふふ仏ホ知ふくふとゆのふふく

何度とてくとゝ云りスゝぐ拙とかゝつて玉第とゝゝとも云
△勅撰乃初ゝ乃玉第ゝ乃玉第ゝ乃ゆゝぐ玉第と
此奇ハ文平貞字二年正月ゝ月ゝ文室宇陽と有ま
屋ふゝつて玉第と名ク有りしゝ時ゝ
長勅と言てゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
大伴の家ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
もあり又ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
命ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一たゝかまぢきよハ　㊥しゝくまし　又懸樋とも　ゝ
△面まぢかなどを粉にまぜ〳〵ゑの外ふけこまれぬる
一〻ゝ木よハ　㊥たゝりこ　ゝけさあれとゝさゝりあれこ
又山城ふかいと木あり又男そうれこ万葉〻四時と云
又斧の音ゝ木ゝゝゝ

一 さくで正神社　㊂ 沈紙神　下もの川の神なり
△いたていたるまゝ絶と申てこと神なり
一 岩もりの神　㊂ 乙紙神　偽ふさへの神と云
一 さくらゝと神　㊂ 天乃岩戸と引あけ一神なり
侍勢西京乃おとゝ所ふまゝ滅と又大和城新ふる神
一 岩ら絶の神　㊂ 夜とさらぬひせ一神なり
一 えもりの神　㊂ 風神なり　鈴田と同神
一 ぬ神　㊂ 天台ふ玉泉ふとゝあり又呉も云説
一 川ゝ弓　㊂ ふゝりとまたゝらゝ多米弓と云
八雲ふ前女乃弓ふ多りて又白ゝとなりて又八ゝなり
一 ゝゝ紙ゝと
△川ゝ弓ゝ神社ゝ絶ゝ

一 川ゝと　㊂ 岩川ゝと云ふ乃天ゝ
一 ゝ神ゝ　㊂ ゝゝ川ゝ　ゝゝ
一 ゝ神ゝ　㊂ ゝ抜ゝ　江ふ抜ゝ　但多り家江流
一 ゝゝゝ　㊂ ゝゝ西ふゝゝ行ゝゝ
一 ゝ紙ゝ　㊂ 焼乃ゝ乃里ふゝゝ時ゝ
△焼乃ゝ紙ゝ乃ゝ山のゝ出ふゝ江流ゝ家ふ小町
一 ゝゝゝ　㊂ ゝ乃ゝ江ふ
△ゝ乃ゝ乃ゝ月神ゝ西ゝ紙ゝ
一 ゝゝゝ　㊂ 神ゝ
一 ゝゝ　㊂ 都ゝ
△神ゝ紙ゝ
一 ゝ神ゝ　㊂ 多ゝ乃ゝ山里　大武王位
一 ゝ乃ゝ　㊂ 多ゝ　ゝ橋ゝ衣の神

一 ハ 岩乃こゝ ㊁ 元岩乃ひくこゝ [illegible]
一 こゝ [illegible] ㊁ かまりこゝ [illegible] 源氏 [illegible]
△ 東中おつれこゝ乃 [illegible] 社地とこゝ
一 こゝ [illegible] ㊂ 元乃こゝ [illegible]
一 玉ひとび ㊂ 人玉れとび [illegible] 法こ 根魂
△ 玉とこゝ [illegible] 結びこゝ [illegible]
一 玉乃こゝ [illegible] ㊂ 玉紙光 [illegible]
一 こゝ [illegible] ㊂ 雷紙こゝ 又 [illegible] 名と 雷水
△ 初日こゝ [illegible] [illegible]
△ 初日こゝ [illegible] [illegible]
雷のこゝ [illegible] ㊂ 賀茂屋へ入こ [illegible]
田ぬこゝ乃こゝ ㊂ 山田のこゝ [illegible] 田乃 [illegible] 小真の [illegible]

一 こゝ [illegible] ㊂ 玉蔵こゝ [illegible] 玉葉
一 こゝ [illegible] ㊂ 雅こゝ [illegible]
こゝ [illegible] こゝ 雅こゝ [illegible]
△ 雅こゝ [illegible] 松乃小山の [illegible]
△ 雅紙こゝ [illegible] [illegible]
こゝ [illegible] 表とこゝ
△ こゝ [illegible] 表中 [illegible] 外こゝ [illegible] 金 雅親
一 こゝ [illegible] 小松乃 [illegible]
川 [illegible] 雅の [illegible] 神で [illegible]
△ 接乃こゝ [illegible]
一 こゝ [illegible] ㊂ 帝こ乃 [illegible]

一〻むらやとハ　㋐　五多と云　むらやとハ　ことあり心
こゝはの四ふを海し珠い海ふるを拾ふれ　ばあり
一〻たゞあすトハ　㋐　拭発と云　あゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一〻むまくゞずトハ　㋐　ゝ　ゝ　ゝ

△雜賀ノ荘大宮ノ西ニ高ウシテ宮ノ神ノ橋ノ下ニ
一ゑで　ゑ　ハ　田　八雲ニ云ヒ　ゑ　あるべきなり
一ゑ　ゑ　ハ　田　ゑ　ゑ　ゑ

一そこなうこと ㋟ 山おろし人倫 大らかのこと一こうとそこなうことを云
一そこなうこと ㋠ 雲の紀之一名そこなうこと云 辞書
一そこなうこと ㋡ そこなうこと
△我が社わたつみ海の神の名れ松と云 ㋢ 小松 ちそこなうこと
△むぎ波のそこの浪のそこなうこと松 ㋣ 松と云 別 松
△みやまの山ぶかそこなうこと松 ㋤ 松 ちそこなうこと
一そこなうこと ㋥ 深霧と云 つくねこと
一そこなうこと ㋦ 田ふるさとのこと 云賞 こと心
△山田の傍の社 秋果ねれば人 ㋧ 俱義 花と云 ある人 ちどり 拾ふ時
一そこなうこと
秋の義花乃ことを ちどりて引拾ふ 歌のこと

△夏草 ちどりて ちどりて
一そこなうこと ㋨ 背月 神去 小
一そこなうこと ㋩ 雲 霧 霞 蟬 蜩 蝉
一そこなうこと ㋪ かさ
又 和 菊 云八雲 和 美 菊
菊 ちどり 後成乃古来風 秋 ちどり
△ちどり菊の名 菊のちどり ちどりて
一神 ㋫ 一 神 御 神 ある神 ちどり
又神 続 ち 神 神 ちどり 神 ちどり
△七夕乃神 神 ちどり 川 ちどり

一そこくとハ　㋕ 本来風ふ付て云 孤乃字なし

△風そこくぐあるの水川のなどれの伝授で友の京ぬ名

一それ行とハ　㋕ 蓑乃ぬ行るし 蓑行と云し

一そこくとハ　㋕ 万葉ふ云万と云又 行名 おかれる

一そこくとハ　㋕ 元志めもかれ

一そこくしくとハ　㋕ そどしかくふ搭あ入 神

一そこのくとハ　㋕ 蓑博 そんそくなかれる

一そどやとハ　㋕ そこくやと云ん又されば ぞ云ん

八雲ニ人乃云葉ふそすと云ん　蓑 殺し云

△月かと歌のそもけのこそりて秋と我風も字乃

一そこくれ行とハ　㋕ 行こ 一切と能生 蓑 者ふとる

一そこくやふるとハ　㋕ 行りとそこ本ニ奇と注ス

一そこくとハ　㋕ 蓑月と云けるし邪山いかも山

一そのくのの山とハ　㋕ 須弥山乃山 蓑 蓬莱亀山と云

△和ハ葉ふ書い書く京白和くれ弟ふそのくの山

一そこくとハ　㋕ 邪 乃名 あり

一そことハ　㋕ 足下と云人と敬 人乃足と称ふ

あてくこり足下と思命ぐこり人とぐけとも地ス

一そこくてとハ　㋕ 猫ると暗 ちん ことぐてたを

一そこくてとハ　㋕ 幸てこ人乃足しるるの

一神のりてとハ　㋕ 神のこてこ神れて ふみぐ 蓑い

なり今の世ましべ ぐべと我いまのらり

△神のりて語ふのこれると云ふ風やそくん

一そこくとハ　㋕ それゆへふそくあり

一そばがきとて　㋐そば抜くとて　ふたろし
万
△そばがきとて　あるべき　ぞ　いとせんとう　我家　孫
一そばがきとて　㋐　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
とてもとうなしとうきんが　[illegible]
△[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
一そばがきとて　㋐　晴れ　晴れ　晴れと　出　[illegible]　七夕に　[illegible]
一そばがきとて　㋐　[illegible]　[illegible]　[illegible]
△天の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
神あり月とて　㋐　七月　[illegible]
そめ　[illegible]　月と
一　㋐　八月　[illegible]　[illegible]　[illegible]
そばあり　[illegible]　㋐　[illegible]　[illegible]　[illegible]
△そばあり　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

一そばがきとて　㋐　[illegible]　[illegible]　[illegible]
△[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
一[illegible]　㋐　[illegible]　[illegible]　[illegible]
△[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
一そばがきとて　㋐　[illegible]　[illegible]　[illegible]
△そばがきとて　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
一そばがきとて　㋐　細　[illegible]　[illegible]　[illegible]
神ふり　天　[illegible]　㋐　清　[illegible]　[illegible]　[illegible]
一そばがきとて　㋐　[illegible]　[illegible]　[illegible]
一[illegible]　海とて　㋐　雲　[illegible]　[illegible]
△[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
一そばがきの紙とて　㋐　みどりの　[illegible]　[illegible]

一そぐろ　上ハ　㊁ 者ぐろ　ろ　秋ハ　ろ
一そぐろ　上ハ　㊁ そぐろ　ハ
一そぐ　上ハ　㊁ 上紙　ハ
よび出して　ろ　ろ　ろ　ろ　ハ　ハ　ハ

一 はくあれ四ハ ㊂ はくしのもはくあはくはくあり
はくしのもはくはくのあはやうあれ みはくあれ四
一 月のでやハ ㊃ 蓮のもはくのもはくのもはくの

一 はたらたおろうとは ㋕ 風邪なり 邪をおこす
一 つまんかんろうとは ㋕ 雪の中をたつまんこく 籠こと
そして 雄 雪をゆうせのことなり
△ こうまより 蘇乃里小 蘇 ありつまいこうこ なり
一 はうまとは ㋔ 物をつくるゆひこなり
△ 表てふるぐたるくいかとは 表乃札のつくもたん
一 はーやうとは ㋕ 弱なり はーあたい 弱小あたん
一 はいかの秋とは ㋔ 十二月 晦日乃 秋なり
一 はくじのこくとは ㋔ はくじの方こ 行 云わ
はくじの本こうれ 菓 雑 雑乃 本いこれ 毒なり
△ 元つるげ 田 換のくこ なれ 弱つじのこ ふわせこ 花咲
一 はれくとは ㋕ 陸 絵 さびーこ

一 はぶとこれとは ㋕ 俗小はぶとこと云物なり
一 津とは ㋔ 水門まつこ 大津 雑 津の 物なり
天津風 対津風なりじいやこあ字なり
一 はく井つとは ㋔ 生 井つくとうんこ
一 はのまり川とは ㋔ はのまり川なり
一 はくひことは ㋔ 使 箱 こと 知らこ
一 はぶとは ㋔ 人小はぶつくこ なり
一 月待ことは ㋔ 知れくと 出る月と 待こ
一 はや夜の夜ことは ㋔ 夜乃わーたなり
△ はや夜の夜れ村 雲 こ その四 の 物 乃 こ 蛍
一 はくくとは ㋔ 彩 俗 さくこ 氷こ 氷 柱 こ ひと云
一 はつくくとは ㋔ 俳こ 八雲こ 毎乃かぐら 名なり つくーと から 名と云

一 法のべ[illegible]　㊀ 豚と去る者の雑とくむこ
一 法りどれ　㊁ 池中小さき鮫あり
一 法ゝねく　㊂ 柏とそつつ[illegible]
△ひさみつねたこ長日の[illegible]
一 法やくこれ　㊃ こうくそうぢとる[illegible]
一 つこのひゝく　㊄ 高水とひゝくゝ老年の生ゝ[illegible]の方
乃ゝと封[illegible]てゝ長ゝの日を[illegible]封と用
ゝゝ和く大肉にまれい鮒小ゝれと中[illegible]年中の[illegible]と除と云ゝ者
△長ゝえてゝ[illegible]
一 つぐく　㊅ つゝくと云ふ日[illegible]と長ゝ[illegible]
△つくと長の[illegible]
一 法べ[illegible]　㊆ 法べくゝ人ゝくゝの雑

月ゝ[illegible]　㊇ 俳外[illegible]　月[illegible]男[illegible]
△[illegible]
一 つま[illegible]　㊈ 妻[illegible]乃[illegible]
一 法[illegible]　㊉ ゝ[illegible]
一 [illegible]の[illegible]　㊊ 法[illegible]の[illegible]
一 法[illegible]　㊋ 吋の[illegible]
ゝゝ[illegible]
△[illegible]
ゝ[illegible]
△[illegible]
一 法ゝ[illegible]　㊌ 解[illegible]
[illegible]

△天竺風俗井の浦ホ万るべの如くそこ雲のたゆまざるべさ
一つぐふ上ハ　㋐あ月まるるすく　一つさくふ上ハ　㋐迎火のくすく
一月ちうふ上ハ　㋐作ふ物
一つくちりうふ上ハ　㋐つぐなるとうそ笛とふ見くく
一月乃郷上ハ　㋑月之名のすく
一月人男上ハ　㋒月乃名ことと　猛男なり　○兼名苑ニ
云月中ホ河之河上ホ樹ありこれ百丈下ホ一人あり
樹とこそ生ハ兵とふ十六仙と栄てこ木ありと云是と
樹男と云又経説ハ切利天中ホ閻浮樹あり一名陵
利樹名又移樹と云ハ八百四十里樹陰月中現ずと云
一ちうつえ上ハ　㋓頬杖なり　ちうつえなり
△鉄之唐山ハ一ちうくかぬれハちうえのうそ先つれぬる

一出さけて上ハ　㋔炭火ホ水乃ひとりてうすく
△六月の云之うて照日ホ色紙神ひ物ホ水わらどて
一洗紙上ハ　㋕素麺上ハ　㋕素麺ハ秋三月ハ日毎ホ紀吳之
△月ハ花乃名かりうん之ふ中と安神之ちうる
一素麺上ハ　㋕尾花之　一つ色ホ一茅上ハ　㋕蓮なり
一洗之茅上ハ　㋕ちんぐく　一つ紀見茅上ハ　㋕萩なり
一洗け茅上ハ　㋕さくく　一つそまり茅上ハ　㋕せりなり
一素とう茅上ハ　㋕芋のく乃素ホ七夕の夜ホ之の者之
一洗ぐく笠上ハ　㋕梅乃花ホふく今ちかさなり
一素ちうり月上ハ　㋖十一月なり
一洗かり引上ハ　㋖撫姫ちう出ちるく之ホ編とつけ
ちうちうり弱ホふく　ちうく云なり

一 はまびるとハ　㊂ 蛭のことなり

一 家のまへ多とハ　㊂ 月もやどるなり

一 つぐみとハ　㊂ 肥後国名なり 又洛の国名なり

一 つゝくつぐとハ　㊂ 牧乃ちげなり

一 はまとハ　㊂ 紅あく 紅あくハ 紅花と云 張西と

△ 三月のはつ雪 ㊂ 児乃乳とあまりのみもらん

一 はるぐさとハ　㊂ どくだみとなり

一 はるかのあをとハ　㊂ 奥羽乃名なり 田村郡石水日本中央と書付しるし ○天保 正長 永享 永正 永禄乃年号ハ中つぐがくしとり巻ものなり

△ 陸奥乃いぞ島ぶりとハ 東乃名文

一 月ゝの雨とハ　㊂ 去日の雨 月ゝの雨ハ 伊勢外宮

一 はくゝゝとハ　㊂ 乙女乃髪と 付髪髪と云 浦色ハ

つゝもとハ 菓子乃髪ハ 仏乃髪と云 紙や毛ゝ 付ハ乃

△ 百年ハ一年ゝゝ ゝつゝ ゝ

源じハ 小聖ハ 乃ゝ

どもあり ゝ

一 ゝむとハ　㊂ 春乃ゝ

ほとゝぎすとハ　㊂ 拍子乃 ゝ

△ 夏ぐさ 小麦ハ ゝて

一 月乃 ゝとハ　㊂ 色ハ 源院乃 ゝ

遠れて 中乃 ゝて

て 庭とハ ゝ

蘭かりろくはまろ拾とふせんろ多く猛虎毒蛇ふ害せらるゝも毛虎い我年生ろ道面ろ罪業黒白の蘭い月月ろろろ毒蛇と蛇ろくふゝつり毛と月の蘭と云

一ゆゝろ木ハ ㊀ 秋京方の家と住せろゝ日石

一ゆゝのゝトハ ㊁ 冬出家の住家し住ものり大云

一ゆゝのトハ ㊂ つ世ろ

一ゆゝろ木ハ ㊃ 鬱林い世ろ入滅の石と云

一ゆゝろトハ ㊄ 永ろふちんふ死引とろんつろ

一ゆゝのろふトハ ㊅ 楊柳の小櫛し又小枕大云

△秋京い知人多ゝせく庵の流りゝとふつゞけの小枕

一ゆゝれ石トハ ㊆ ゆゝてゝ一住れふし トハ ㊇ 脇之と云

一ゆゝくゝ京トハ ㊈ ゝゝ京のゝ式ゝふゝろ猛し

一ゆゝゝトハ ㊉ ゆゝゝ京ゝ

一ゆゝくゝトハ ㊊ 下藤ふ住ふ仮ゝり包仮と云

一ゆゝろれけ衣 ㊋ 蓑乃毛の衣ふ仮ろと云

一ゆゝろゝゝ衣 ㊌ 猿神ゝと云墨深乃服し八宝ニろ猿

に住れゝ中毛ゝ衣ゝろゝふゝ乃飛ゝ毛ゆゝろゝ乃飛ゝ

一ゆゝろゝ毛トハ ㊍ 狐武の代ふ大和ふろゝ又義仏の代

ふゝろゝふろゝと名へゝろゝふ天狗ふ伏と

一ゆゝゝろゝ毛トハ ㊎ ゝろゝくゝゝ乃名し 古今の俳諧所

△秋風ふゝろゝふゝ毛義ゝ蔵ゝゝゝ毛ゝ世てふ巻ゝ

○ね

一蘭のゝゝろトハ ㊐ 徹ふろゝ三井ちの牧豪ゝ灵ゝ

一 稀なる事

一 稀らして捷

△いかゝ年稀らして捷 紙布のうあるの捷 花咲ふくり

一 稀だごとハ

△稀だをわすれ稀なん社らてこゝに歌乃表とゆゝ

一 稀びのひとハ

△七夕ふかゝつる糸 年のとをくらしやらん

一 稀びけんハ

一 稀りの村々ハ

ひとり稀れ稀りの村々の風わらはごとり

一 稀どゝろハ

一 稀らしいりハ

(ハ) 沼ふかゝりかくれぬと云ふ絵と

(ヘ) 年末と招引みて捷らし稀らて

(ト) 非ふ形ふを稀だふ付てアし

(ト) 七夕ふ彦 白く女工と形らし

(ト) 俵人 表裏ふ人 児の手 柳ふ所と ふるとと 板屋三戸の発キ

(ト) 蕎戸の村々ハ

(リ) 花ふ村ふ

(リ) 偽侍と云 刻山の稀 稀侍のうあり

一 稀びとろハ

一 稀らしいりハ

(ル) 彫りとろ 稀びゆくと い 彫形

(ル) 稀らしいりハ 稀らけ

人のかゞちく 古今ふ紙とゞれてとふ形りの

△とゞ里ふ紙ゞれとゝ 稀ふ時ふ家ふも稀ふ参とろ

一 稀らしゞハ

(ソ) 嫌姫 不分 場ふ書 稀らしゞ

△歯づとゝ あまらこの歯もわゞ稀らしゞも寄とゝ

△凡海セゞ紀美 ふるり山里に稀らくゞふい稀りふる

一 稀りてハ

(ソ) 美木と稀ゞて捷とゆゝ 稀りて

△かれ安ふ義かゝ男ふ氏ふ稀ゞ稀りや稀りふれゞけてゞふ

一 ひとり

(ツ) 一対と男ふ

一 稀らとれ稀ハ

(子) 物義乃ふ稀りとひ

一。稲ぐゝハ ㋕ 稲げ 稲だゝ 稲だゝ 皆同じ 右稲だるゝ後と
一。稲てのわゝげハ ㋖ 稲ぐゝのわゝ
△あゝ氏長やゝ小株とわれど稲その稲けの系のありけ
一。稲びれてハ ㋗ 稲びれる稲 稲ぐれる稲も同
一。稲んじゝびてハ ㋘ 稲んじゝ
一。稲つゝまハ ㋙ 稲こゝまぶさ 一稲ぐゝまハ ㋚ 嵌ゝ
一。稲ゐゝまハ ㋛ 稲の穂まと 稲ゐゝぐゝと
△あとゝねの穂の穂の稲ゐゝまの穂ゝまの穂ゝ生稲ゐん
一。稲ゐゝまハ ㋜ ゝびのゝ
△秋とゝハゝゝよゝと稲ゐ穂ゝ嵌稲の実ゝゐん
一。稲ゝゝまハ ㋝ ゝりゝゝゝり
△ゝびゝ立波ゝゝ赤小振白まゝむ紙袖小書ハ後つ

一。稲まちの月ハ ㋞ 廿日ゝゝ月ゝゝ月ゝゝ月ゝゝ月
一。稲ゝゝ萩ハ ㋟ ゝびゝハ稲ゐゝ稲ゐれバゝゝ
一。稲ゝゝぐれゝゝハ ㋠ 霰紙袋 又紙袋ゝ
稲ゝゝれゝゝれゝゝれゝゝれゝゝゝゝゝゝ沢の池のゐゝれ新ゝ
△尺一人の稲ゝゝれ袋の俤小濃かゝゝゝゝれゝ稲
一。稲ゝれまちハ ㋡ ゝびゝと云ゝゝ
一。嵐の森ハ ㋢ あゝゝゝゝゝゝゝ 昔天子ゝゝ姫ゝ人ゝ袋
一。子の日のあゝびハ ㋣ 公事根元ニ有リ
小野ゝゝ子日ゝゝゝて松ゝ引ゝゝ
稲後撰
△子日ゝゝゝ引稲ゝゝ小松ゝゝゝゝゝゝゝゝ後ゝ
一。稲ゝ小日ゝゝハ ㋤ 稲びゝゝ袋ゝゝ稲ゝゝゝゝ
△後ゝ川ゝびの山牧のゝゝゝ言稲ゝゝゝゝ川ゝ 蓋張

○な

一、なくの中ろハ　㊀　山王七社（三ツ木）又ハあぐめん社を
△我れむし七の社乃名ハ名ハ
一、なごろハ　㊁　海波（カイハ）あらくなりて波のうちよせ
一、なまもろハ　㊂　なまり（ナマリ）ぬのうら　鯰（ナマヅ）ふち　大未（ミヒツ）
一、中川ハ　㊃　新家橋川（シンヤキヤウカハ）　禁（キン）洲乃ぎれし　名の
中川いあひ　里の中川ハ里の中と流（ナガル）る
△此ハ海ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
△ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
一、なだの川ハ　㊄　なとざりし　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
一、なへゟハ　㊅　かくれと云ハ又ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ

△ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
△振（ふる）ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
△日ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
一、なるゟハ　㊆　なるゟ（ナルエサ）ハ　㊇　鳴子梅し栗畑ゟ
△ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
一、なるゟハ　㊈　大間乃ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
△ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
一、ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ

一 たまぞくとハ　㊇ みぞくとハ　又ものくハ　平号し
△時多あよりたるれ打とはくまれ紙をへを紙とん
あれたるものの名とハ　いざあれたをあ上ふいざあだ法あ
源の称とあるし
一 あれ人とハ　㊇ げとてきし　法右支し同じるあ
一 たるくく人とハ　㊇ つたくく人し　聲康 阮籍 王戎 山濤 阮咸 向秀 劉伶 是也
一 七のかりられ人とハ　㊇ 竹林乃七賢し
△古れ七のかりられ人もでかがら拙い酒ふとあれ
一 麦引の糸とハ　㊇ 麻し　麦引の白糸ハ　麦引のとし
△あふとハあもらず麦引のとはとぐにのとなぞや
あらの古ことハ　㊇ 万葉集のるし　清和天皇万葉集
とあれ法拙でるることとあせあへばあるあ

△称五月時及ふりとのるあれ氏名ふ称氏のたこいれ
半泳弟とあれ門とし方紫ハ聖武ふ拙じ
称さ半泳ふ嫁称とるし名半城と方紫乃をどと
一 海乃あるとハ　㊇ 海鵜乃とれるし
△海るるさ海れふ里ふ雲海く岩れ乃月新
一 たれハ海れ乃とハ　㊇ 奇乃れるし　雑源名ふ
一 たるくらとハ　㊇ 嫁取　増れる嫁取あるハ
一 あごりとハ　㊇ 俊乃称りし　名称　俗源　陸源
一 あれざりとハ　㊇ 号閑あり　称んれふあれるし
△号ふ称一抑の一投ふ月新木るれ名号氏　字源
一 なりりとハ　㊇ あるるし
△長てふるのくごれ称く廣ハ黄氏るる源称るり

一なりとハ　⑪ こぐ　一なりとハ　⑪ こぐ

一かくとハ　⑪ ゆくなり

△ちかひをたてしかくのごとくなるを

一ものとハ　⑪ 新撰　仮名日文

文殊ものゝ人もあれど

△文殊の五百年をあまりたれのちにぞ

一なりしるとハ　⑪ うぐひす

一なるべしとハ　⑫ やうぐん　みなぐさ

△大浪の波小舟のてをたゝかしてんハ

一なるべしとハ　⑭ 指南　地紙

一なげきなりとハ　⑭ 欲乃波　本ゆゑ

△欲ゝ波ゆゑ山をぐるを　はしれ中ゝ　赤源

一なるべしとハ　⑭ うぐひす　仏ものたり

一なるべしとハ　⑭ うぐひす　塚墓　円　高麗　河　那

一なるべしとハ　⑭ 名ものゝ

△あるべしを名をくる　菊　ぶ　花のまやとゝ

一なるべしとハ　⑭ うぐひす　一　海のす

一なるべしとハ　⑭ 琴　古文　結乃　弦

一なるべしとハ　⑭ 和琴　二の絃　文十三の絃

一なるべしとハ　⑭ 箏　一　きんこ　⑭ 辛こんかぐ

一なるべしとハ　⑭ 和こ　一　⑭ やうこ

一なるべしとハ　⑭ 滑　ぬんりとぶ　やうこ

一なるべしとハ　⑭ 和　琴

一なるべしとハ　⑭ 琴　云　集　云

一なぐ　上ハ　タ　瀬あり　海川の落合　陸奥海と云し

△芦乃屋のあぐれ性燒ゝ屋のあぐれ性燒ゝ

あらさぐ　上ハ　タ　中世　さぐるとゝ　貝

一なくしひ沼　上ハ　タ　あひや湯　郷姿と云　あらさぐ

一なれとぐ　上ハ　タ　あれる塚　又あれく　数ふもき

一あぐやぐ　上ハ　タ　和下と云やゝ　あらし　みやてゝ

△あり義　和ぐ下ふ　和られ　和しとゝ　あぐゝ

一あにれ　上ハ　ヒ　仏やゝと云ふ　又仏もも

一なれ　上ハ　ヒ　地のれたり

一かとそ　上ハ　ソ　かそとゝ　そとゝ　奥列　かと

それ　累と云　とゝかた　かそと云ふゝ　とゝ

△高橋のかとそれ　天のうぐと　仏ふゝ　ぐれふ

あれりそ　上ハ　ソ　狐　八　狐る巣と云海　あぐゝ

あれると云ふ　あれたり　てあり

△かり初のあぐあれりそ　そびくらん　秋分の方　行　狐と　巣

一かり津　上ハ　ツ　いろはに十八字　とゝり

一あぐこ　上ハ　ツ　やゝぐつ　あり

一あるひ　上ハ　子　とゝわゝる　稲　狐　かあ

一あぐる　上ハ　ラ　くゝ　海る　形

一なぐれ　上ハ　ラ　とかどりの　河　かとり

一なげむ　上ハ　ム　狐の　ん　疑　あぐると云

一あん　ム　狐　八　縄　と云やゝ　用　八　下　初

一かぐう　上ハ　ウ　ゝ　ゝ　ゝ　あり

一なぐれ　上ハ　ノ　分　あれ　乃　狐　あり　とゝ　人の　臭

一七くさの赤ゑよハ（ノ）　紙乃車こゝ紙と七匹云あり
何熊城乃方とゝ
一名こうさ青野よハ（ノ）　名の面白ゝ　八紙青野と云
一あぢめくよハ　（ク）　あまめさくさくと云ふ所と
一あぐ形くよハ　（ク）　あんぢぐあくし海鳴し
一友そひくよハ　（ク）　麻乃葉と川出て引ゆし
一おそへ形くよハ　（ク）　年為かるゆし又長雄ハ細合ゆし
あ家くとのとべかぐ家くさるに紙くさるかりくり
一あ川さひ吹よハ　（ク）　風の名し　一あくくよハ　（ク）　あん形くし
一なぐよハ　（ク）　長浦　和し　ゆるぐだ夕ぐだハ海上也
一なくゝ屋よハ　（ヤ）　中居　居あり　中屋
一あ川さ山よハ　（ヤ）　桜浮あし　一あくくよ川　（ヤ）　魚越山　去作也し

一七くさ屋よハ　（ヤ）　表乃さまと車七あづハ車つゝまぢさし
△表まとかくさ屋ハ七車つゝて表くく我くさ
一あくくさ川弱よハ　（ヤ）　縄都弱　縄と引切くさ弱し
△引表ハぐあくくて表弱の縄くさくさ居ハ車中宣文
六百表判ハ云居ハ云ハぐ云まだらくくさハ縄
新弱とぐくさ乃ハ
一七くさ乳ゑよハ　（ヤ）　蝶通乃浦林ゑと海くさ七曲し
一なくさ屋くよハ　（ヤ）　かまくさ　未熟あり
一ゆぐくのぐけよハ　（ヤ）　大表尺加乳獄し　表ハ縄乳獄と云
一なくよ作よハ　（ヤ）　かくさ乳作し　一なぐけよハ　（ヤ）　あくし
一なぐめ腰よハ　（ヤ）　ゑ表あ腰し　葉腰くさ　あぐ乃
乳とゝハ腰の乳し　腰と流ゑくさ　あくてくさ

△[illegible]

△[illegible]

一 [illegible]

△[illegible]

一 [illegible]

△[illegible]

一 [illegible]

△[illegible]

一 [illegible]

△[illegible]

一 [illegible]

△[illegible]

一 [illegible]

△秋萩乃[illegible]

一 [illegible]

△[illegible]

一 [illegible]

△[illegible]

一 [illegible]

△[illegible]

一 [illegible]

△[illegible]

一 [illegible]

一 ものりこと八　㊀ 乳母（ちはゝ）と書みぐりぐりさゝ
一 ものがれて　㊁ ものぐるへてもものがれての世とゝ
△ うれものぐるけみる泡
△ 源の者ゝ結ゝく久米
一 ものぐさこと米ゝ　㊂ しぐたなぐさこのこゝ
一 ものに拾米ゝ　㊃ 長米（ながくめ）と云米 合の間のもなれ
米と石ぐりゝ　八雲（やくも）ゝ米とあり
△ 結ものゝて ものに拾米結ものゝ
一 ものとり米ゝ　㊄ 牡丹（ぼたん）　一 雑波米ゝ　㊅ 芦（あし）あり
一 ものゝ米ゝ　㊆ 石竹（せきちく）　一 友宮米ゝ　㊇ 卯花（うのはな）
一 ものゝ月ゝ　㊈ 九月（くがつ）　一 ものゝ月ゝ　㊉ 蹴鞠（けまり）の月
一 ものれ木ゝ　㊊ 流人（るにん）の木　雑波（ぞうは）の三年　生料（ずりやう）の三年

△ 流れ木も三年ものゝ
△ 流れ木と三百流と
一 ものりこさゝ　㊋ ものゝ
△ 振ものゝ月ものゝ
一 ものゝ湯ゝ　㊌ 張流乃石
一 ものゝ女ゝ　㊍ 雑波の女　河内女（かはちめ）ものゝ
△ 雑ものれ家ものゝ
一 ものめゝ　㊎ 雑波（ぞうは）あり　雑めものゝ
義乃拾ものゝ　伊勢物語（いせものがたり）
一 ものめゝ　㊏ ものゝ
一 ものかゝ　㊐ 物語（ものがたり）
△ 天の原ふりさけみる

一なる神とハ　㊂ 天一神のるゝ山神乃おはとる文
　きざりてゝもし源氏ふ中神ふさうりてとる
一なるつゝ孔殘とハ　㊂ らゝこの人弟にもり殘し
　なぐれの泉とハ　㊂ 又なぐるゝ　殿　若酒のるゝ
一なんどゝとハ　㊂ 衣乃ゝ更へどゝゝろ
一　源乃とゝ　㊂ 俗乃ゝ源ゝり年の夏祭ゝるし
一なゝゝとハ　㊂ 保ゝるゝし　あゝけふ八云ゝ孔た
　のん更へるゝし　ゝゝゝゝゝゝ
一なぐゝとハ　㊂ 六月晦日孔法後し　長和と云ゝ
　のゝゝゝ人云ゝ神と　ゝゝゝゝゝゝ
△ 左ゝふゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝ
△ 六月の名紙の後とゝ人ゝゝ年の命のゝゝ社ゝけ

一かゝりとハ　㊂ 螢とゝ人ゝゝ虫のゝゝ
螢　△ つゝめたかゝれゝゝゝ虫のゝゝ
蛾　△ ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
蟬　△ 八月藤ゝゝゝゝゝゝ
一なぐゝ年とハ　㊂ 年乃ゝゝゝ
△ ゝゝゝゝ流れてゝゝ年後のゝゝゝゝ
一なゝゝとハ　㊂ 保ゝゝ
△ ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝりとハ　㊂ 世乃ゝゝゝゝゝゝ
一中乃衣とハ　㊂ 衣ゝゝゝ
△ 衣ゝ中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
△ ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一なりもの〻ども　㋮ こんにゃくの実乃
　新ぶ　ありのみ　こんぶ　ぎんなん　栗
　かき　柿　すもも　ぶどう　柚　柑子　橘　梨子　柘榴
一あくまき　㋯ とうもろこし
一夏ごをろうすし　㋰ 塩ごんぼう　をろうり　をろうり
一あつうすし　㋱ おいの実　夷法螺　ゆとろろ

○ら

一らうそくあるよ　㋲ 上蠟燭　らうそくさし又ろうそくさし
一らの花よ　㋳ 菜の花　しかまつ　はむとゆとろむ
一らてんよ　㋴ まくらぶとゆとろむ
一らうよ　㋵ 廊　しもうり　板ハたうどれ　一間

一らうそくよ　㋶ ぜんくそくそくさし又ろうそくさし
一らうくしくよ　㋷ 上蠟燭　ろうそくさんあり
一らちとゆよ　㋸ ろうそくらうそくかこひし　結婚
一らいしよ　㋹ 菓子　とうひ　ひし　みり　ぜんのかさ
一らうよ　㋺ らんとう　羽のかりり
一られ　㋻ うすれ　表紙あり

○む

一むのれ井よ　㋼ 茅　ぶどかんれうる井あり
一むろよ　㋽ 寧　あり　席　みゆ　茅　あらず
　むろ　ハとくえやうしのむろ　又妻乃ハ　云禁止の句り論語
　禮與其奢也寧儉下略とうそうとこいむーろナト

ちやうの付まりとそり奇ふさんとさち入て此べ花あや

一むまとハ　㊀ 弓場殿あり

一むやいとろかハ㊁ 糸紙あり　ぐまでいそ手くと糸紙　ひ金まろ　おとあり

△あやかとろお其か絶の絶び社と殿の石舟形もろれの

一むくきれの座ハ　㊂ 大内乃ろ手あり

△第乃座其芸風のどろふく花ふ表乃雲の人分か

一むぐたハ　㊃ 絶りあれるもし

一むあたがハ　㊄ 秋好中宮の局又大内の座し　凝花舎

一むべハ　㊅ 宣べとろーきと換　理りと云ふ

△咲かしれ秋の季本の山ふる其山風と嵐とあん

一むりごとハ　㊆ 鶴去ぬまく絶ろく形ふし

一むぐろの宿ハ　㊇ 薄し　あれろ宿くむくろ門も同

一むまやぢハ　㊈ 弥源ん　撥乃宿其辛丑と弥去と云ふ

弥源の絶ハ乃の絶し又むまやと云因ハ今やと云更

弥源ふもとくしありし弥源といい別のもしう書くと云ふ

一宮の八橋の懸ハ　㊉ 下野国中ふ清乃くしむの八橋

と云りそれ名紀立の懸のがるとむの八橋其懸といふ

行

△ぬぐ名ぬ名ぬ名ぬ

一 ひるがほ ハ　㊃ 篠原 あり　四月 ひるがほ さくなり

一 昔 ゆかしき ハ　㊄ 昔めぐりし 例 と 今 ゆかしき 事 なり

△ 吹風 ふく 花 ちる 花 や 白 ふく ん 昔 ゆかしき 人 の 庭 多

△ ちはやぶる 神 の 昔 ゆかしき 月

一 むかひを ハ　㊅ ひるがほ 峯 に 峯 と 尾 と 二 あり

一 ゆかしき 四　㊆ 六 四 名 不 あり

△ ちはやぶる 神 の 昔 ゆかしき 月 の 四 月 に むかひ あり

一 むすびて ハ　㊇ 若代 の 結び 松 と 云 ふ 奇 と 注 す

一 むかしさ ハ　㊈ 仙洞 の 昔 し

一 むれの ハ　㊉ 山 の 煙 し（日本紀 に あり）と 云 又 山 の 鉄 あり

一 ゆかしき 花 ハ　㊊ 雲 あり　ひら 花 皆 月

△ 昔 ゆかしき 松 山 の 月 を 花 の 下 の 友 ぞ ゆかしき ハ

一 ゆかしき ハ　㊋ 奇 の 六 種 と 云 風 紙 硯 筆 鞍 頭 之

一 ゆかしき 花 ハ　㊌ 李 の 花 し 咸 さ と 云 ふ 奇 と 注 す

一 むかしさ ハ　㊍ 恋 し 心 かし ぞ あり

一 むかしれ ハ　㊎ ふれ ぬ こん 云 ん し

一 ゆかしき ん ハ　㊏ ゆかし く ハ ゆ ぞ く に 用

一 むかし く ハ　㊐ 云 述 と く 嘉 ゆ る し あの え む く と あり

一 むかし ぬる ま ハ　㊑ 人 の 昔 ぬる 昔 し むかひ ふる 車 の

一 梅 が え ふ ハ　㊒ 正 月 七 日 の 四 ふ あり

一 むせぶ ハ　㊓ の ぶれ ぞ ふる し 哽 と 云

△ むせぶ 花 ぞ ゆかしき 人 の 我 の 煙 ハ

一 ひ の こ ハ　㊔ 出 雲 なし　ひ こ 云

一 むかし ご ハ　㊕ 持 流 ゆ ふ こ 云 ふ 二 あり

一むろ男トハ　㊐ 業平と云ふ也　藤と切て男と候

一むもで トハ　㊐ むもの

△あくこの人のまとゝ所為て むらまはりなの法

一紫乃袖トハ　㊐ 四位ハ二乃袖 衣なり

一むりれ木トハ　㊐ くちるる木し　人ふまぬとむりれ

木ふまぬて迷惑ふまぬ

△為かゝ所為の埋れ木ハ秋の梅の葉ゆ接一ゆり

△彦ゆ所為の渡川のほれ木ハ氷の下に生と伝ゆり　蜜

△「長月」山吉れ埋れ木拾ぬ表ふ吉こ世ゆ生の松風

一むもぶ トハ　㊐ 多摺多り　一むろ木ハ㊐ 拾多ゆ埋木し

△所のまれ拾ぬ人かく山のむ拾ゆ埋ふ吉の埋す生

一むり月トハ　㊐ 正月く睦月　一 梅ゆさ月ハ　㊐ 二月く

一むやくの実トハ　㊐ もゝく紙云　又奥列ふ吉

△或ゆ所ゆさ入ゆ所ゆもゝやくゆ所ゆもゝやくの実

陰奥生羽ゆ焼ふ所ゆふ山ゆ吉ゆ木ゆ所ゆ　仕木　やゝかゆ

ゆゝ所ゆ所ゆ所ゆ行ゆれゆやくゆ所ゆもゝやくの実

むやくいゆれ山ゆふゆ吉ゆ実し出羽ゆ所ゆふ山ゆ吉ゆ所ゆ奇林ゆ所ゆ

くちのむやくの実と所ゆ

一むつけさトハ　㊐ むつけく　拾ゆ所ゆ

一むゝゆ所ゆの吉ゆ　㊐ 仙境乃吉ゆ

一むゝきゆのつゆトハ　㊐ ゆるとゝゆ所ゆ

一むゝうめトハ　㊐ 李多り　仕ゆ所ゆ

△封多の多ゆ吉ゆ封多の吉ゆ所ゆ吉ゆ所ゆ

一むゝぶの井トハ　㊐ 産霊ゆ所ゆ

△あらんむちぶの外ぞ拾めりうたんと仰ぎ給へ

一むさし絵トハ　㊂うけて拾ひ上ゝ　こんあり

六月の拾ひ上ゝ　㊂天一の方遠し　云　七度二有

一むぐるまの髮トハ　㊂鳥羽玉ハくろきさゝ云扨はうぐるまの

さらたゝ云りくろきと云ふ可と注と

一むろぼとトハ　㊂容金多り

一村りすゝトハ　㊂みぐりの文ふまり村雲村雲と

乃やうにうちべうべうこぐ拾ひくろあり

△雲花あぐる雲乃雲沢の流線雲ゝと云村雲多　蒸菰

一むくいのつゝトハ　㊂云　礼乃ゝこあり

一むーのゝトハ　㊂いりの雲ーしいりの雲ーと

一むりすトハ　㊂移んぐろあるすし　睦し

一むくろくひトハ　㊂六乃くろひゝ又ゝのちゝ又ゝのくろ

一むくひ火　㊂くろひふ脇乃雲と云月ゝ武蔵どり

乃ゝとゝ雲ふ火と付て焼くろくんとせーと又ゝあくさん

火と付て歌乃方へあぐ人ゝ赤美多ろひ多ろくとあり

一むくろーつ火トハ　㊂ゝひ乃るすし　むくの大あり

一むくくひトハ　㊂山ふゝ歌し　籠と云　又多り

△むくくひい指りゝむくゝ足引の山のゝ川とゝあひふ多ろ仆

一紫乃雲トハ　㊂磯乃ろ

一紫乃振振乃衣トハ　㊂紫乃振振て拾ろ衣ゝ又人と襲

てくろりつゝもろ衣ゝとゝり　敲ぐ流奥歌多

△くいトハ　紫乃振振乃振振て拾ろ衣ゝ又人と襲

右清浦ぐ流定歌ゝ寸ゝ　ゝ世歌注意歌ゝ

△人こゝろなどを[illegible]は[illegible]ぬ　堀川右府

△ぬれ衣と人ゆいなれ[illegible]履物の数　いはゞ[illegible]

嘉勤ゆゑ　堀川右府[illegible]社[illegible]かよとされ[illegible]め天二条

乃関白今一ゑか[illegible]あしられ[illegible]

ゆへ[illegible]ゆ出[illegible]ゆ[illegible]衣と今い[illegible]

きんとの[illegible]　和泉式部

[illegible]ぬれ衣と[illegible]

一　ひろのくや色　四　ま苗のすゑ　ひろのこゝたゝ

四　ひろこゝく　陳西乃　色に四紙　紙り元と[illegible]

○う

一　うれしさ　ハ　① 海色に[illegible]

一　うれしさ　ハ　② 鰐乃[illegible]　岷江乃小[illegible]に羽鰐と[illegible]

一　狩川　ハ　③ 狩[illegible]弁　狩[illegible]　狩川かど云り

△大内川いと色のがれ　狩[illegible]弁　[illegible]山の[illegible]　家隆

判云狩川のせゞと[illegible]

[illegible]

△大内川狩山[illegible]

[illegible]方　[illegible]

月[illegible]

[illegible]

一　うれしぬ　ハ　④ 鵲　[illegible]

一　うゑ　ハ　⑤ [illegible]

△[illegible]　[illegible]

一ふけ多へふ上　㊂ふけうたれ又ふけ
一ふけ之へふ上　㊃ うちうけふと云　いこうちうけふと云
やごてとゝんこ定歩ついで折〻ゝんふ上ゆれうち
八重ニうちうへてとゝうこ又俗ほと云ん新ぐきと云ふ
△まこ及ハ浪神ふ〻ぐふ之ふ山と保ふ多ゝんっぐう
△ほりまとゝいそべの波のふ之ふ多ゝ神れと多ふ定系
△ふ之ふ多ふ多ゝうの人ゝこと人ゝとゝ記て神と記ほりねう
源じ及ぐう海乃ゝ中ふ之ふ多ふ之ふ多ふ之ふ多ふ之ふ多
まとうこぐうとうとゝ之ふ多ふ多ふ之ふ多ふ之ふ多ふ之ふ多
一うう海の国上ハ　㊂ 琉球ふ多ふ多ふ之ふ多ふ之ふ多ふ之ふ多
一うううへ上ハ　㊄ 裏表ふ多ふ之ふ多ふ之ふ多ふ之ふ多
一ふけへうふ之ふ之ふ之ふ之　㊅ 人とのふ多ふ之ふ多ふ之ふ多ふ之ふ多 詛と云

△海もほれ人ゝとうけ人ゝふ之ふ之ふ之

一うゝ〻〻〻

一うしぶれとハ　㊁ うしひれたる　衣のくしゃくしゃなどをいふ
くしゃくしゃとしたるをうしぶれたるといふ　じゝくさびれたるもの
公任卿の抄にはくしびれとあり　げにあるべくもあらずとても同じ
うしろ髪風情とそうり方案内抽出ずやうにいふ
△秋祭ふうしびれ汚れば是引の山下ごろうと麻丸ぶん
一うまひ松とハ　㊁ 盆殿の小松と云ふ松　神かろ稚の
松と云　長松と云やうくくけうる松と云るうる髪松
一うちまれとハ　㊁ 炬松　くたいまれのるん
一うしうれとハ　㊁ 無濁　又時乃一付とあれ小ふ
濁刻とめんぐ〳〵無乃と刻ふあるとなくなる一付より無
一うちうそうそとハ　㊁ 深じふ　ふるるたちめくと云るくるる
めくとえんにはおん　肉格なるの又お格後と後り奇

△絵ろいは行格ちくくはあるとろくくろけてせろまり抽と
一うくて祝とハ　㊁ 鳳凰　牧鹿　そくくろびれるる
一ぷくくしがとハ　㊁ 鶴　鶴と一鶴様ろ女鶴ろり
一ちすくくるとハ　十 かざくしの花　かざくしかざりる
一うけくくの花とハ　十 白ぬがの花　ひくくろ抽る
△濃ぐくくはひれゆくこふたう弘ぐ花の花ふ虫やや
一うずくくろ　㊁ 濃くしの花　冠乃かざりふさと花
さとぬと冠のうすくくろり鞠ふもろる所鞠ふ抽た云
一奇濃くくとハ　㊁ 濃所乃ふの花と載　能因が撰ろ
一うれぬくくらとハ　㊁ ふ抽くくくく

一うすもよ　の　四位と云　白川の縁しとぶらいの人
一うちのよ　の　秋乃西殿と云　同殿の行ろ
一うしろめくよ　の　後縁と云　くもくもろ
△弱きぶ紀殿てぞみろ橋姫乃風のはらさた　元長殿
△女郎花うしろめくもゆかぶ花の独り立れい
一うばそくよ　の　比丘尼比丘尼乃男女優婆塞優
婆夷入在家乃男女なり修行仏道と修とこれと
仏乃弟子乃弟子と云皆梵行なり源しか
△うばそくばかりなるとうるぶゆくうんよもふる紀殿りぶ家
一うぶれてくよ　の　うぶれゆくしてくそいりて行く
うぶかぶくよ是末乃上乃乃指ぶるし下乃家に姫ず
△家幸ぶうしろれそく秋のくに潮くもろ風のうろか
一うそふくよ　の　鹿　鹿除鹿　行奇ぶ風吟
一うけくよ　の　紫の者と云　ぶうれと云
△世中乃うけぶれわぶうるぶ末ぶ
一うづもくよ　の　古ぶと云万乃乃二稚仏人の右京と云り
△久ぶれのぶの秋風乃ぶて稚仏乃源乃の里　後妻
一宮乃人末とるよ　の　切乃人　末く　やしぶゆと云
△稚乃宮乃社ぶ宮乃ぶ宮乃ぶくとぶ
一うぶうしろくよ　の　月のうぶうぶうぶうぶうぶうぶ
一うしるよ　ニ　うぶうるし鞍とうぶと云
一うぶうぶ海よ　ヤ　祝乃乃稚　うぶ乃人
一浦しまよ　ヤ　浦潟ぐふと云り　奇林院殿ぶる
第乃家ぶ長所乃略し　丹後乃乃人乃乃乃月ぶ紀雄

○略天皇廿二年秋七月乃至[illegible]海名[illegible]
[illegible]とされて一川乃越と[illegible]
[illegible]て女[illegible]
[illegible]て支[illegible]
[illegible]
[illegible]

やうに成て後しに後れ影眼より
串にさしあとつゝみて[illegible]
成まに後ふりて[illegible]
とさすとうずとゝゝ
一うゝに涙ゆふよ　㋐　熊野浦みるゝ太ゞ[illegible]
へゝゝ廣く浦の涙ゆふ百[illegible]
一うゝ月ゝゝよ　㋐　うゝ[illegible]
百[illegible]
△梅ゞ[illegible]
△[illegible]
一うゝ[illegible]よ
十二三月まで乃[illegible]

一うゝ[illegible]よ　㋐　[illegible]乃[illegible]
一[illegible]みゝの[illegible]よ　㋐　女房乃[illegible]
一うゝ[illegible]よ　㋐　[illegible]
[illegible]女乃男[illegible]
[illegible]
一[illegible]よ　㋐　正月[illegible]
[illegible]
一[illegible]乃[illegible]よ　㋐　[illegible]
△[illegible]
一うゝよ　㋐　うゝ[illegible]
一うゝ[illegible]よ　㋐　[illegible]
一[illegible]よ　㋐　[illegible]

一うゝとけてよ　㋔ 折とけてきよ
一うゐてよ　㋔ 濃乃名あり
一折どーてよ　㋔ 折ぎうざくゝ、折をんじてと濃
一うゐ伏てよ　㋔ 万葉に釜と云　川ふ伏て魚を丸抱
一うゝうゝまよ　㋔ 鹿乃ろし
一うゐふさよ　㋔ うゝむてさあり
一うゐ本の名よ　㋔ 卯の花　うゐ本の花　白ゐ云
一うゐうゐよ　㋔ 熱の字ひゝきさし　釜　炮と云
△薬草あれうゐ者付れたるうゐと花のたくさく成うゐ
一うゝ人ゐ記　㋔ 得時釜長と云　時ゐ記うゝ人ゐ
一うゝ人ゐ焼よ　㋔ 占のうゐあり　占部氏　占ゐと云
万葉十六鮒　他拉ぐ　奇ゐ式　伽藍記

万

△むさゝ赤うゝ人ゐ焼酒さゝ赤とのゝぬ者ゐ居うゐ出ふゐり
さいはゝとせぬ人のたゐふ出るゐ人ゐべ　但清捕　捕と云
一うゐうゐぶ記とは　㋔ 倭猪　猪と云
△うゐうゐぶ記今も居あゐ付者知者月記ゐり　出明
一うゐやとゐ記よ　㋔ ゐやとゐあり
△万代の者ゐとゐぬ白菊とうゐやとくゐ　ゐざーつゐ
一うゐひ乙女の切記つゐよ　㋔ 花名員　女真郡と云
△古人のゝ田男乃妻とゐひ乙女のとゐつゐ
△芋のやのうゐひ乙女の把ゐつゐ　ゐれい後のうゐ
△つゐれ長ゐれ人ゐ呼びゐりゐとゐ男ゐ　ゐとゐ
在大和記ゐりゐ　はのゐ　やのうゐひ乙女と云
女と同西乃ゝ田男和果乃ちね　かとゐふ三人和ゐ

さしあたりてひろられば女せんこくとりうきて

△住吉びの歌をあげてんせの生田の川ハ花の咲そり

女山ハとうきて生田川ハ月ありてあね二人の男と分

とあげて死ぬり三人のかしらけきあげて女と中ハ

つねたかハ二人の男とつねたかあくハ今ハるとあんたハ

十九ニ出家まれ地のよふつげのとぐとさしれば生付て

ちこるうしハしくしくり　一芋ハ　㊁かくやハ

一ハ田ハ　㊁冬とちる神　一うしハ　㊁七夕こうとこ

うだのうしハ　㊁ハうだ西ハとこうだ稲のりこん

神ハ　ますハ大明神しハ神のりこうだのハハ

と鄙ハとり　神和ハ毎ハかしひふとりるひ

△さしひ　ハハ　ハくこしひや我とハんうだの稲ハ

八幡ハ鄙ハとり　八住吉大明神乃うだの

稲ハ神ハかしハとりるひ住ようの神ハ

ハうり晩ハハ鄙ハ　㊁ハうり　一ハ

一ハ　㊁ハ　㊁ハ　㊁ハ　㊁ハ

一ハの神ハ　㊁　蓮の神ハ云ハ

降ハの時月ハ書ハ　数ハ

頂ハ牛ハあり　額ハ　業ハ　肩ハ　田ハ稲ハ

ハり陰ハ麦ハ小豆ハ　天照大神　業ハ

名ハ稲ハ　田ハ　ハ　蚕ハ

世ハ　ハ　ハ　特ハ　ハ

生ハ中ハ　倉稲魂命ハ

神ハ　八神ハ一神ハ　稲ハ

一うがの神とハ　㊂宇賀女ともいへり　女神にして福神なり
此神ちく疾病を除き富をあたへ給ふ人ゆゑに
其法ありて毋故ゆゑ作聖新新不宜奈々封不奈々
乃社とく祝られたる所ありまた保倉神
倉稲魂ともいへり　此神ハ其孤ひとりくして
因幡其名乃神号とやしく伝るとぞ此神むかし下
行の時新とあしく山の麓ゆゑ出たりゆゑ
限なく富貴をとなへ　故ゆゑ此世をみな財よりこの
△天京ありさけれども所を出ずして弱ものとも
それも神と祝れあゆゑ社うゆの神をそ今に此所をそ
一うろの神とハ　㊂牧牛の神　此神ハ海の神なり
故白川院熊野詣ありし系浦の出時みりゆゑ云ふまて

△うろの神とハ　㊂内典　外典乃書なり
一八月の山ふとハ　㊂業平ふれやうり新人云伝へ
一うるれかぐとハ　㊂月とともあり
△新ゆゑ故新よりる月の新海の境ゆ所ゆ人也
一うるうるとハ　㊂風とも　神とも　所ともゆ
うとうむうるうるうるうるとせよと使
うる風とうるせうるゆうるいうるゆ
一うるうるとハ　㊂せうるれかうるとうるうるせうるとうる
あゆうるり　又万葉に新磬と云磬ゆゆ
新出とうるゆゆと云う稿と云白ゆうるせうるゆ
うへけんゆり　うるせうるとうるうるうるうるとせとうる

△[illegible]世[illegible]

一[illegible]ハ ㊐ 人のひれて[illegible]とも[illegible]

俗ハ[illegible]たゞひたゝ[illegible]り 又[illegible]乃[illegible]ふ[illegible]ん

[illegible]ひ又[illegible]ハ[illegible]と[illegible]

[illegible]と[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△天[illegible]

一[illegible]ハ ㊐ [illegible]

[illegible]

△[illegible]人も[illegible]

△[illegible]

一[illegible]ハ ㊐ 因乃居[illegible]

△浦[illegible]の[illegible]れて[illegible]

[illegible]

一[illegible]ハ ㊐ いの[illegible]

△[illegible]

[illegible]

一[illegible]ハ ㊐ 惟乃[illegible]

△[illegible]の居[illegible]

△[illegible]

一[illegible]ハ ㊐ 世[illegible]

一[illegible]ハ ㊐ 卯[illegible]

△[illegible]

一ゝゝゝ

○ゐ

一ゐくらハ　㋕ 居倉（イクラ）あり　紀居郷（キキヨドウゴウ）あるのくら

一ゐでのゐでハ　㋖ 山城乃居所あり

一ゐやくさくさハ　㋗ やくさ　薬（ヤクサ）あり

一ゐくゆくハ　㋘ つるくゆくし　つるめてくるゐでとゐくゆ　さくさの行くたた云

一ゐひとりの井ハ　㋙ 井戸（ヰド）　天皇ゆきの人水幸のとた

井の中者ゐし池の井の先とゐ　ゐあり

一ゐでの下ゐびハ　㋚ 大和（ヤマト）ゐ　ゐ　ゐ　大云

ゐりかとゐ（ホウヘイ）ま幣乃仕ふ大和へゐでゐ

乃ゐくゐゐくゐ六七さいだゐりゐゐとりのゐだて

ゐゐ武ゐさく常とゐたてゐゐ也　ゐ（イ）へとゐりそん時

あゐんと弱ゐ朱ゐくゐゐりさゐゐかくゐく七八年へゐく又ゐ

ど仕ふ行ゐゐ時男ハ女のゐゐとゐゐれゐれゐれ女ハ

ゐ是ゐどゐて男とゐんゐゐり先ゐて井ひゐるゐやゐり

ゐとゐゐへ井ゐ武下者行めぐりゐ也ゐ　さむ川のゐ後ゐ

○の

一のゐる雲井ハ　㋑ 雲井　ゐくゐゐとゐふゐり

一のひとへハ　㋒ 袴ゐるひとへの袖ゐりのゐめ

一聖上の宣ハ　㋓ 宣旨（センシ）くゐゐれめとゐり　ゐゐ行ゐ

△ふゐゐと行ゐゐれゐ殿ゐ聖ゐ武ゐくゐ者ゐ

一乃くゐとハ　㋔ 乃ゐ住ゐまゐゐゐをゐり

一ゐざれの琴ハ　㋕ 琴（キン）ゐ　ゐれゐゐ琴ゐり

△[illegible]

一のべのもとをれとハ　㋒　[illegible]

一のもとをれとハ　㋒　暴風(バウフウ)のくし　[illegible]

一聖中の清あとハ　㋒　播磨(はりま)のあるとれかもを首いめでさに

あるくをたるうち赤はれとれるさまむ[illegible]

[illegible]

△[illegible]

[illegible]

△[illegible]

[illegible]

一のをとをれとハ　㋒　遠賀郡(おかぐん)　[illegible]

[illegible]

△[illegible]

[illegible]

△[illegible]

[illegible]

一[illegible]とハ　㋒　[illegible]

一のべのいしまとハ　㋒　聖(ヤハラ)[illegible]

一のりせ山とハ　㋒　[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

一[illegible]とハ　㋒　[illegible]

一のらとをれとハ　㋒　[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

一聖をれとハ　㋒　さざれ[illegible]

一のべのいしまとハ　㋒　聖(ヤハラ)[illegible]

一のりせ山とハ　㋒　[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

一ハ　(廿)　鞆際なり　岩つくさも岩のさいこ

▲長引の山ばとるとく神際に今社こうあく岩ゑ

▲ゑ川の岩のつくゑゑあくゑ

▲中ゑ毎ゑ新ゑ正ゑ　ゑ岩の岩ゑ山のつくさゑづくゑれば

一のゑり茶ハ　(廿)　蒙あり　一　ゑとゑり茶ハ　(廿)　蒙あり

一ハ　ゑとゑ　(十)　岩ゑれつ形ゑり

一ハ　法のとゑ　(十)　法ゑれ作ゑ

一ハ　岩ゑの後ハ　(三)　岩ゑ中のゑ猿ハ　若雛器帝形

ゑひゑる対ゑゑゑく岩ゑ岩ゑ河岩ゑれゑ指ゑ

ゑけゑ岩ゑれ新ゑゑ岩ゑ猿ゑゑく岩ゑゑ

▲ゑ岩ゑれ新ゑれ猿ゑゑ岩ゑゑ

一ハ　のゑり弓ハ　(三)　指弓も　天ゑ弓ハ湯ゑ岩ゑ弓ゑれ

らんどゑもは村ゑとゑりゑのゑゑん

▲指弓ゑくのゑゑとゑ引ゑゑく湯ゑゑゑゑゑ

大方近東ゑ天狗皮ゑゑゑ事ゑゑく後ゑ猿ゑゑ

岩ゑゑゑゑゑ源氏ゑゑゑゑゑゑゑ

まゑゑゑ方ゑゑ酒ゑゑ出ゑゑゑゑゑゑ

一ハ　ゑゑゑハ　(ン)　山伏ゑゑ　又世ゑのゑれゑゑ山林ゑ伏ゑ

又伏ゑゑ乃ゑ師ゑゑ　伏ゑゑ

仁寿ゑ奈ゑゑゑゑゑ　三世ゑ法伏ゑゑゑ　百正

くゑゑ法ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

六根の義ゑ紙ゑゑ悔ゑくゑゑゑゑゑゑゑ

ゑゑゑゑ指ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

▲ゑゑゑゑ法ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

一八月の役ハ　㊐ 鶴ヶ城へ天子様御役と云ふる事

七月八日函館より前役前新撰組

年中▲笑こ山のごとの第とあひて年みかつて色ゝ役い　京伝眼

一聖ゝ也ハ　㊐ 聖ゝ面ゝ　在也在也同おゝ聖役眼

仮▲秋月ゝの也ゝ出の切りのごとの切りのあやゝも振ゝ山ゝん

長ゝ▲庭也ゝ山ゝ月ゝ出の枝の茶釜後ゝ山ゝ海ゝ行ゝ　ゝゝ

同▲月也ゝ也ゝ山ゝ月ゝ山ゝ月ゝ山ゝ月

▲かとうれ[illegible]ぬしの[illegible]
後水述懐の奇しき[illegible]
そのくるびるく[illegible]
めぐりあひ[illegible]

▲[illegible]

一 ぬかどらトハ ㊀ 女郎蜘蛛の白糸と男郎蜘蛛の[illegible]
一 ぬかあんごトハ ㊀ 大[illegible]梅の木 大已貴[illegible]の[illegible]
一 ぬかとむごらトハ ㊀ 蔵佛 [illegible] 出蔵のこと
一 ぬかとろとろトハ ㊀ 人色の様子
一 ぬかとまとまトハ ㊀ かしらも [illegible]
一 ぬかしらトハ ㊀ [illegible]
一 ぬくまもろ ㊀ 奥ふ[illegible]

一 ぬひたとうトハ ㊀ 長生 日本 生長 人の形をあらはすこと
[illegible]
一 ぬりこうトハ ㊀ 生き[illegible]

▲[illegible]

一 ぬんこうトハ ㊀ [illegible]
一 ぬるとうトハ ㊀ [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

一 ねがうとハ　㋕ ねがうとは　たゞ　ゆるやうに　願ふ　願ふ

一 大きびの事ハ　㋖ 紙　ふとい　曲　あり

一 ねがう　四ハ　㋗ 四ツ　かゝる　年　ごとに　ぶつて　ぶつて　ぶつて　ぶつて

▲ねがう四のうち　ねがひ　ねがひ　ねがひ　ねがひ　ねがひ　ねがひ　ねがひ　ねがひ　ねがひ　ねがひ　ねがひ　ねがひ

一 ねがひうれ　ハ　㋘ ねがひ　ところ　ところ　ところ　ところ　ところ　ところ　ところ　ところ　ところ　ところ　ところ　ところ

一 西ツとれ　ハ　㋙ 尺　ツ　とる　とる　とる　とる　とる　とる　とる　とる　とる　とる　とる　とる

一 ねんうつ　ハ　㋚ 四ツ　年　満　ち　り　四ツ　変　ち　り

一 ねがひ　ハ　㋛ ねがひ　ひ　く　て　こ　ど　が　ら　ま　れ　ん　ま　ね　ス　ね　ス

▲ねがひ　ぬ　ど　や　く　の　尺　し　つ　ん　義　と　ま　り　せ　ど　さ　ま　ど　ま　す　と

一 ねがう　ハ　㋜ 大　ち　紙　と　云　持　ち　ま　あ　り　ま　こ　ば　ス

▲雅　ま　ど　ま　き　ま　れ　月　の　ね　が　う　ね　ま　て　ま　う　ま　こ　の　ね　が　れ

一 ねがひ　の　ま　ど　が　ハ　㋝ ね　ひ　ふ　つ　が　う　れ　ま　う　ま　い　ま　り　ま　ど　れ　ま

一 ねがうが　ハ　㋞ 如　ち　る　ま　あ　り

一 ねがつ　ハ　㋟ 為　上　乃　か　つ　つ　ま　れ　た　大　長　ま　ど　で　も　義

ねがつ　ぬ　く　ひ　ふ　ま　れ　い　ち　長　の　る　ま　り　ねがつ　長　る　ま

一 ねがつく　ハ　㋠ あ　ど　つ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

一 ねがん　ハ　㋡ 百姓　と　云

一 ねがれ　ハ　㋢ 大　ま　ま　ま　れ　れ　れ　れ　れ　れ　れ　れ　れ　れ　れ　れ　れ

大　に　と　れ　ハ　㋣ 赤　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

一 ねがあ　と　れ　ハ　㋤ 大　狩　友　か　ま　や　あ　り

一 ねがめ　く　ハ　㋥ さ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

▲いそ　ど　ま　ま　の　ま　ど　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

一 ま　ら　く　ハ　㋦ 只　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

一 ま　か　く　ま　や　ハ　㋧ ま　の　か　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

一和やのはや　㊅ 紙文　はやから多り

▲新の紙と文ひまきくらひてまき紙のようにあらぬへ

一大内山トハ　㊆ 内裏のこと　一始もみトハ　㊇ 英流こ

一おぐしもそ山トハ　㊈ 大和物がたりふるこ。伝流国の名称の

里ふ伯男おぐしをーーーひて紙のごくふかづこ

ふそ女房ふくめくそ文ふこらといひぬく

めくはふるこ山乃はくへそそうされたこれ男

かぎりあくかあくくうれ山のくひそうこ月を

あるの一夜用もはうどかあーこ入ふくくと奇と後

文ひて はくへそうこれたうはば はくそう

▲ふこ山ぐうるこ山文料や はび はふこ月ひこて

一はりつけトハ　㊉ 小縁こ去ぐうるこ人ふこ去ぐこ

ふかりはやけ

▲意そのかさこ山の去かこ山ぬくこ云るなり

法名河　此非小縁ところそ　これはりつけの縁ふ非ど作ス

一おかやけトハ　㊋ 弘乃宮ところ　又宮こ出

一大せうこふトハ　㊌ うひはこ大井　うこうるふを種はみと二百ふ

一はくめるトハ　㊍ ふ女のこのあり

一はひとこ花て　㊎ 都ところの同人の都ふうこ身たるこ 老速

一おもあくてトハ　㊏ 西院あたこ　一はくとげてトハ　㊐ 人のやうこ

一はもあれてトハ　㊑ こぐあるこ　○去条右大臣あれれ

業にはそくこ条こくこ山ふはけ使ふうこ時

▲別毎の後の新小面あれて者ふ身ふそうこれはあ

一はひ条トハ　㊒ 嫁聟女英相の流作の板ふふ由て

作とぞ　八重咲　紫菊　又一枝に　とうとぞ

一　おもしろかるべし　㊐　白頭菊　菊あり　又　松とも云

▲後素岩乃あらの義素なるてたるべきとも花

後素乃里ふる佐乃松とく年ふりしろ松ふる松

秋やそなん故ふる松ひて義なるて後々常に松と

を用　琴とをしべ又庭ふる菊と越くをしーをり義ぶ

▲素庭ふる岩乃松ふるぶ義ふる岩乃義ふるあん

ひさるふるて松とも　菊とも先ふる義素とぞ

一　庭のふる素ふ　㊐　家里乃ふる　松ふる里ふる菊ふり

松ふる坂上乃大根に送る奇　女と庭ふる

▲義ふる紙ふ　組ふる

一　おもしろかるべ　㊐　山姥とぞあり　○菅大和あらの糸

ふる男女乃親たるふ里ふ後女ふかしてあるかしも変り

ふる男女乃親たるふ里ふ後女ふかしてあるかしも変り

ふれ今ふるもかあひるくふれ二人りかくを

元出たるひ乃俗とうて　元ふりてふれ二ひあ

ふるん時ふ焼とかり出てたるくくとく男ふ親

乃まれのふれふ又のそふの義ふあり

山ふる生出ふり男あるふふくふ出ふふ稲

ふてふ元親ふるふ中て焼とかり出

ふくくふるむを年の秋ふふ出ふりあふ新ふ

つふく生出ふりを時男根ふ他乃ふありふて

生ふる義ふふふ俗乃ふあるふ

一 ねりぬきとハ ㊀ 帷子 ㊁ 一 ねりぬきとハ ㊂ 衣類多く長袖

一 ねりてそめたとハ ㊃ 面目をはなれ 西之方

一 ちりめん麻多くとハ ㊄ ちりめん麻とあるさふらふ云

又ちりめん麻とちりめんのちがふる云

△ちりめん麻ちがれてみなさくり麻多く人の姿形

一 大ちりめんとハ ㊅ 男乃ちりめん 女のとちりめんと云

一 ちりめんの羽織とハ ㊆ 武士乃ちりめん 女羽織

一 ねりぬきとハ ㊇ 紅藍乃ちりめん 薪屋 火職

一 ねりぬきとハ ㊈ 藍乃ちりめん

一 ねりぬきとハ ㊉ 藍紙ちりめん 紙ちりめん

一 ねりぬきとハ ㊊ 藍紙ちりめん 白

一 ねりぬきとハ ㊋ 紫乃ちりめん

一 ねりぬきとハ ㊌ 紫乃ちりめん 女下女 網女と云

一 ねりぬきとハ ㊍ 藍乃ちりめん 藍乃曲

一 ねりぬきとハ ㊎ 藍乃ちりめん

一 おなしへのとハ ㊏ 西乃ちりめん 浦方 沖方

一 ねりぬきとハ ㊐ 大君 沖門のちりめん

一 ねりぬきとハ ㊑ 小長とちりめんの赤青ちりめん 大長の切 那とちりめん

一 おなしとハ ㊒ 矢なり乃座席

一 ねりぬきとハ ㊓ 田ちりめん 新ちりめん かくしあり

一 ねりぬきとハ ㊔ 色くしとハ 白くしちりめん 中くしと云付

一 ちりめんの袋とハ ㊕ 火宅とさして云 法華三車一乗の心

△法中小車の車乃ちりめんとさして出す

一 ねりぬきとハ ㊖ 紫てちりめん 紫乃ちりめん 白紫

英髪乃袖あり 義とハ六十以後の称あり

△長さ人ちりめんを指長さ計と長田長も明あり

一 ねりぬきとハ ㊗ 大きちりめん 大きちりめんのこ

一 ねとあるひとハ ㊤ ねとあるのれはなしとあるの
とはねとつゝ吉あるくしのとふるへうれいとゝもへ
一 ゆくのひとハ ㊤ ゆくうれのうるあるうあり
一 ねわるまゝ夜とハ ㊥ 夜人出仕乃夜あり
一 ねとて面白とハ ㊦ 面白(メンホウ)あれ猶と人のつゝとゝとゝ云ん
一 ねるわるいとハ ㊦ ねるくゝもゝ
一 ちひさゝとハ ㊦ ちひさゝ物なしちひさゝ物なりと云ん
一 ちひさゝとハ ㊦ ちひさゝ人のゝとゝまく付し前(キヤウ)ハ
人出るゝあり
一 ちひあへとハ ㊦ ちひあへ一ちゝすゝ ㊦ ちひあへ

○く

帝国図書館蔵